

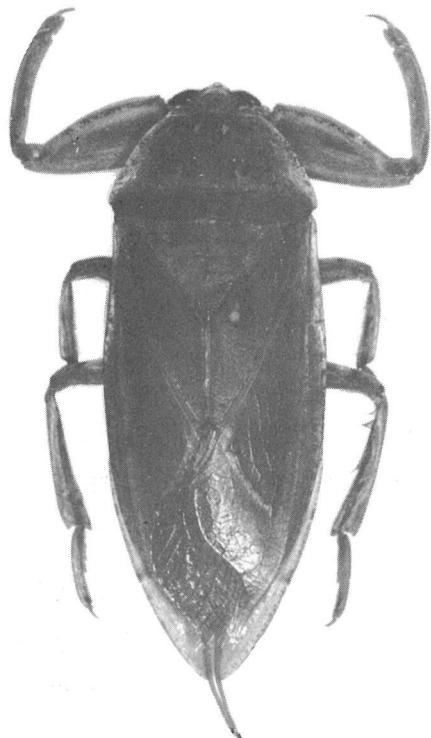
No. 51 pp.850-901

27 - III - 1988

寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI : Saitama Kontyū Danwakai



表紙の昆虫

タガメ *Lethocerus deyrollei* VUILLEFROY

1987-VII-24 飯能市内

飯能南高校生物部採集

県内では絶滅したのではないかとまで言っていた本種を、当会の団体会員である飯能南高校生物部の諸君が発見し、生息地での調査、観察を続けている。いずれ、彼らによって、本種に関する報文が発表されるものと思われる。

.....【連載】

いるま蛾報（2）

井上 寛

.....

関東地方では、12月はじめから2月いっぱいは、夜間採集にいちばん不向きな季節である。発生する蛾の種類は少いし、風が少し強く吹いても、気温が低下しても、蛾がちっとも飛んで来てくれないからである。無風で比較的あたたかい晩でも、午後8時をすぎれば、蛾はほとんど活動しなくなってしまう。

夜間採集道具一式をもち、山間のいわゆる好採集地へ出かけて白布を張っても、余り収穫は期待できないが、私のように自宅のベランダに蛍光灯をつけて毎晩見ていると、ひと晩に飛来する数は少いが、ほとんど苦労しないで、フュシャク類が結構とれるものである。

雌の翅が退化したフュシャク類の生態については、中島秀雄君の好著「冬尺蛾」〔築地書館, 1986〕があり、発生期を詳しく書いてあるが、私がここ加治丘陵の一角の同じ場所で15年余りのあいだに採集できたのは、次の14種である。

出現期間は、長年月の記録だと、どうしても長くなってしまう。実際には、少し早く発生したりその逆だったり、異常におそかったり年々変動するものである。

シロオビフュシャク *Alsophila japonensis* (Warren)

12月中旬～2月上旬。かなり多い。

クロバネフュシャク *Alsophila foedata* Inoue

1978年3月3日に1♂が飛来しただけ。

クロテンフュシャク *Inurois membranaria* (Christoph)

1月上旬～3月上旬。ひじょうに多い。

ウスバフュシャク *Inurois fletcheri* Inoue

12月下旬～1月上旬。かなり多い。

ウスモンフュシャク *Inurois fumosa* (Inoue)

12月下旬～1月中旬。かなり多い。

ホソウスバフュシャク *Inurois tenuis* Butler

3月上旬～下旬。余り多くない。

イチモンジフユナミシャク *Operophtera rectipostmediana* Inoue

12月下旬～1月上旬。かなり多い。

サザナミフユナミシャク *Operophtera japonaria* (Leech)

12月中旬～下旬。やや多い。

クロオビフユナミシャク *Operophtera relegata* Prout

12月上旬～下旬。きわめて多い。

シロフフュエダシャク *Erannis leucophaearia dira* (Butler)

2月中旬～3月中旬。きわめて多い。1988年1月は暖冬のため、1月15日に1♂が飛来した。

クロスジフユエダシャク *Pachyerannis obliquaria* (Motschulsky)

12月上旬。灯火には少数しか飛来していないが、おだやかな暖い日中、クヌギやコナラ林あるいはその周辺を飛んでいる姿をしばしば見かけるので、ごく普通種である。

チャバネフユエダシャク *Erannis golda* Djakonov

11月下旬～12月下旬。きわめて多い。

シモフリトゲエダシャク *Phigalia sinuosaria* Leech

2月中旬～4月上旬。かなり多い。

シロトゲエダシャク *Phigalia verecundaria* Leech

3月下旬。かなりまれ。

雌は飛べないので、食樹の幹や枝を、昼間たんねんに見てさがすか、雄の活動する時間帯に蛍光灯か懐中電灯を持って林の中を歩き、交尾中のものあるいは、雄が何匹か舞っている中心の雌をさがさなければならない。

今後、私宅のベランダにやって来そうな種は、全国的にごく普通のナミスジフユナミシャク *Operophtera brumata* (Linnaeus) である。

早春に捕虫網をもって近くの山中をさがせば、昼飛性のフチグロトゲエダシャク *Nyssiodes lefuarus* (Erschoff) とカバシタムクゲエダシャク *Sebastosema bubonaria* Warren も生息しているかも知れない。若しこんな「事件」が起きて電話で知らせれば、中島君が翌日飛んで来て、雌をさがし出すにちがいない。

(いのうえ ひろし 画358 入間市仏子 311-2)

· · · · · 【特別寄稿】

埼玉県産江戸時代の昆虫図 (2)

長谷川 仁

〔Ⅲ〕「虫類寫生」 細川重賢 宝暦12年(1763)。

5月23日の武州深谷のヒメヤママユ成虫・繭・蛹図。(熊本大学・永青文庫蔵)。

近くの図に閏4月とあるから恐らく本図も4月に閏があった12年の作品と思われる。肥後熊本藩主。本草が好きで、多くの生物寫生帖を遺した。重賢の虫譜は別に「昆虫胥化図」一帖があり、主として昆虫を飼育して、その変態を描いたもので、共に寛政2年(1749)頃から明和4年(1767)にかけての図が多く、肥後熊本のものと江戸のものが多いが、旅先で得られたものも散見される。何れも藩士や画家に飼育をさせ図を描かしめたものである。図は葉のついた樹木の枝につく「スカシダワラ」と「巣のうちの形」とある蛹、と成虫の原色図である。旅行中もこの様に飼育をしながら寫生せしめたようで、近くの図には5月26日上州碓永(峠)、26日信州望月、27日信州和田(峠)で得られた蛾や甲虫図があるから参勤交代の帰路のものであろう。

〔Ⅳ〕「虫豸帖」増山正賢 武州岩付(現岩槻市)産蝶4図、文化6年(1809)採集作図。
(国立博物館蔵)

次の4種類の実に見事な図がある。

1. ウラナミアカシジミ 文化6年(己巳5月15日、表裏図)
2. アカシジミ (同年同日、表裏図)
3. アイノミドリシジミ (同上)
4. ミズイロオナガシジミ (同年5月16日、表裏図)

増山正賢(1758-1819)は雪斎の号でも知られ、絵画も書道も一家をなしていた伊勢長島の城主である。晩年、江戸巣鴨の下屋敷にこもり、毎日昆虫図を描いて「虫豸帖」(春夏秋冬の四帖)を作った。実に見事な寫実画で、最も科学的虫図に満ちている。採集した昆虫たちを標本としても保存していたが、死後遺言によって、これらの虫や絵筆を埋めて、「虫塚」を門人らが建立した。これは今も上野寛永寺境内にあるのでよく知られる。大部分の虫図は巣鴨で描かれたが、上記の4種は他の房州産のカラスアゲハと共に他産地の例外である。3.のアイノミドリシジミの同定はこの図帖の蝶の部を精査された若林宏博士¹¹によったが、専門の方々の再検討をお願いしたい。(図2,3)

〔V〕「蝶の寫生」 咲斎ほか

家蔵の寫生帖で、筆者は複数かも知れず、笑斎・雲生等の数印がある。

天保5年5-6月(1834)の作で、飯能や入間辺の昆虫が40図以上描かれている。これらの筆者につき御心当たりの方はご垂教頂きたい。咲斎は笑斎と同じであろうが、姓が判らないため調べがつかない。No.の次の1オとか1ウとあるのは、昔の頁で1丁表、1丁裏のことである。

- 1.(1オ) ヒカゲチョウ (天保5年5月17日) 笑斎印
- 2.(〃) サトキマダラヒカゲ 表裏 "
- 3.(〃) ヒガシカワトンボ 5月19日 最上峯(雲生印)
- 4.(〃) スジグロシロチョウ 5月20日 宮寺郷梅下庵
- 5.(1ウ) スジグロシロチョウ
- 6.(〃) トンボ(シオカラ?) に馬乗りになったシオヤアブ
- 7.(〃) オオムラサキ (裏面図)
- 8.(2オ) オオムラサキ 5月28日、最上峯 咲斎
- 9.(〃) サムライアリがクロヤマアリの繭を運ぶ図(10頭)
- 10.(2ウ) ニイニイゼミ 背面 花林山(?)
- 11.(〃) 同 側面
- 12.(〃) ヒグラシ 宇賀島(?)
- 13.(〃) キチョウ(春型) 裏無黒 6月23日 長念寺とある
- 14.(〃) ヒガシカワトンボ (線画)
- 15.(3オ) コミスジ (裏面) 6月7日
- 16.(〃) " (表面) 6月7日
- 17.(〃) ヘビの一種 一部彩色未完図 花林山(?)
- 18.(3ウ) タマムシ (墨絵線書き)
- 19.(〃) チョウの一種 (")
- 20.(〃) クロアゲハ (墨絵) 表面図 咲斎
- 21.(4オ) クロアゲハ (") 裏面図 "
- 22.(4ウ) ヒヨウモンエダシャク 白子郷長念寺
- 23.(〃) トンボ 2図 (種名不詳 未完図)
- 24.(〃) サナエトンボ 一種 (ナゴヤサナエに似る)彩色図
中神 田中氏 とある珍しい腹面図である
- 25.(5オ) メスグロヒヨウモン 雄 裏面 長念寺
- 26.(〃) " 雌 表面 長念寺
- 27.(〃) ヒオドシチョウ (?) 線画2図 新久郷
- 28.(5ウ) ミヤマツバメエダシャク 翅を開いて止る図
- 29.(〃) アゲハ 裏面図 (一部未完)
- 30.(6オ) アゲハ 表面図 (")
- 31.(〃) " 表 (未完図)
- 32.(6ウ) エダナナフシ (歩く図、淡彩)

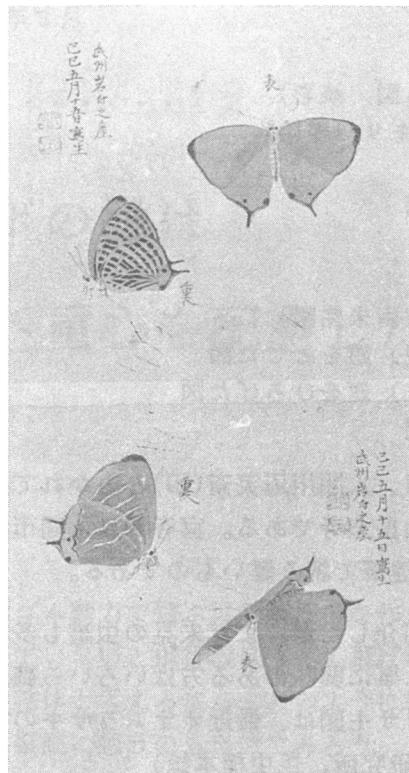


図. 2

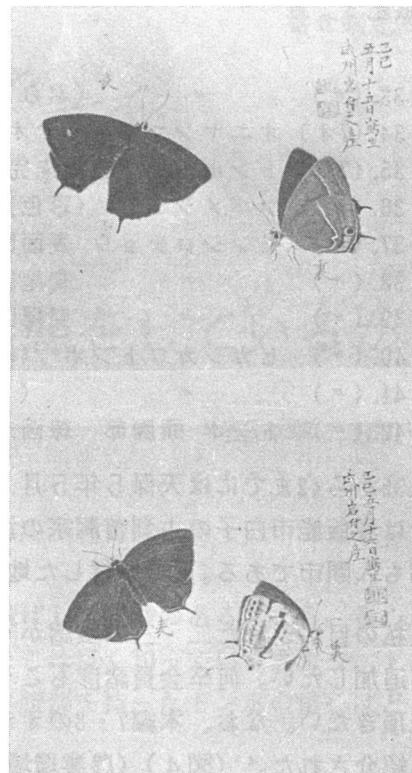


図. 3

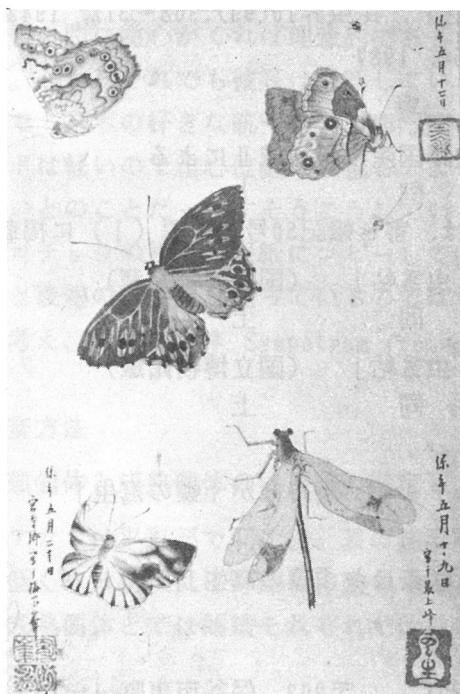


図. 4

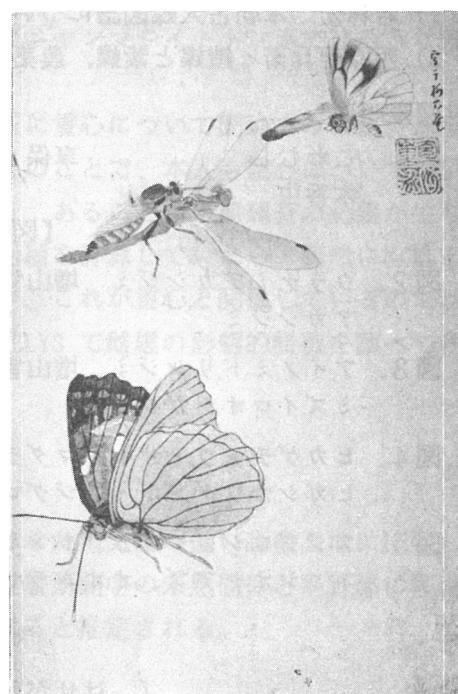


図. 5

33. (〃) " (ぶら下がる図 淡彩)
 34. (7才) オニヤンマを喰うオオカマキリ (墨絵)
 35. (7ウ) トンボ一種 (線画未完)
 36. (〃) ツバメシジミ (彩色) 裏面
 37. (〃) モンシロチョウ 表面図
 38. (〃) " 交尾図
 39. (〃) " 交尾図 (線画未完図)
 40. (〃) ヒガシカワトンボ (褐色型) 翅をとじた図
 41. (〃) " (") 翅をひろげた図
 42. (〃) トンボ 頭胸部 線画未完図

以上35から42までには天保5年5月17日、入間川辺笑斎(印)と書かれている。
 長念寺は現飯能市白子の古刹曹洞宗の清流山長念寺である。宮寺郷は入間市宮寺であり、
 新久郷も入間市である。(?)を付した地名は達筆で読み難いものである。

以上私の目にふれた二・三の虫譜からご紹介したが、まだ未見の虫譜も多いので気付
 き次第追加したい。何卒会員諸彦もこうした事に興味のある方はいろいろ御調べ下さり
 ご発表頂きたい。なお、本編7・8のオオムラサキ図は、最近オオムラサキの古い図示例
 の中に紹介された。⁷⁾(図4) (農業環境技術研究所、昆虫標本館)

[注]

- 7) 若林宏：本朝古人蝶図譜について（2），昆虫界10(99):308-312, 1942
 8) 西原伊兵衛：鎧蝶と紫蝶，農業春秋54, 1987

[付図説明]

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 図1. こわむし
木香虫 | 享保・元文諸国産物帳集成Ⅱによる
同 上 |
|-----------------|-------------------------|
- 【図1. は、寄せ蛾記50号、本編（1）に掲載】
- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 図2. ウラナミアカシジミ
アカシジミ | 増山雪斎「虫豸帖」 (国立博物館蔵)
同 上 |
|------------------------|---------------------------|
- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| 図3. アイノミドリシジミ
ミズイロオナガシジミ | 増山雪斎「虫豸帖」 (国立博物館蔵)
同 上 |
|-----------------------------|---------------------------|
- | | |
|---|------------|
| 図4. ヒカゲチョウ・サトキマダラヒカゲ。
ヒガシカワトンボ・スジグロシロチョウ | 咲斎ほか「蝶の寫生」 |
|---|------------|
- | | |
|------------------------------------|------------|
| 図5. スジグロシロチョウ、トンボと
シオヤアブ、オオムラサキ | 咲斎ほか「蝶の寫生」 |
|------------------------------------|------------|

・・・・・

トンボの雌は

重心を配慮した形態をしているか？

石澤 直也

・・・・・

はじめに

小さい頃ゴム動力で飛ぶ模型飛行機を作つて飛ばした経験のある人なら、重心がきちんと決まつていないと飛行機はうまく飛ばないところは良く知つていると思う。トンボも生きた飛行物体と考えるなら、どのように細長い腹部を持つたトンボの重心はどうなつてゐるのか疑問に思うのも自然であろう。

オニヤンマを捕まえたとき重心を探つてみたことがあるが、後翅の付け根よりはるか後ろに重心が来ていた。平凡社の世界大百科辞典を見ると、飛行機を設計するときは、重心位置と揚力の中心はなるべく一致するように設計するとある。するとトンボでは前翅と後翅の間に重心がくれば理想的であるが、オニヤンマやイトトンボではそうならない。しかしそれでも彼等は飛翔している。

それでトンボの好きな航空力学の専門家に人伝に重心について聞いてみたが、返事は『トンボは軽いので重心位置は無視してよい』とのことで、本人も重心については調べていないとのことだった。そういうしているとき、あることの事前調査の必要が生じて、モンシロチョウの翅を方眼紙にコピーして翅の面積を計算していたら、偶然にも雄と雌で前翅と後翅の面積比は違つてゐるのではないか、これが重心と関係しているのではないかと考え、アキアカネ *Sympetrum frequens SELYS* で雌雄の形態的特徴を調べてみた。

1. 調査方法

〔未熟個体と成熟個体の体重差の推定〕

アキアカネは平野部で羽化後、夏の高温を避けるため気温の低い高標高地に移動し、気温が低くなる初秋に平野部に移動してくる。避暑期間中の未熟個体と平野部に移動してくる成熟個体とでは雌雄それぞれで体重が異なると推定される。

そこで成熟過程個体の体重の推移やその他形態的特徴を測定することにして、調査は1986年8月と1987年8月～9月に計4回、長野県諏訪郡富士見町入笠山の鐘打平で実施した。調査個体数と計測項目は表1.2の通りで（計測部位は図1.2参照）、体重の測定は、A&D社製電子天秤EK-120A、秤量単位0.01gで採集後概ね2時間以内に行った。

未熟個体の入笠山への飛来は、1987年は7月21日だったことなので、例年7月20日前後と推定した。（移動時にある程度体力が消耗し、入山時の体重が最低になるものと推定して、羽化から入山までの体重の変化は省略した。）

未熟個体と成熟個体の体重は、1986年8月9日採集した個体を基準にして、1987年8月8日～9月14日に採集計測した個体の測定値を回帰分析したものから、未熟個体及び成熟個体の推定値を算出した。数値は、腹長と体重の分散度合いから見てほぼ妥当なものと思われる。

〔翅の面積の計算〕

翅の面積については、1986年採集したグループのうちから雌雄各10頭を抽出し、翅をタラカントゴムで白紙に貼付、それを方眼紙に複写し、枠目を数えて算出した。翅の外郭が通過した枠目については1/2を加算した。これによって得た数値を各10頭の翅長と全体の平均の翅長との比率の2乗倍したものを平均翅面積とした。

また、重心移動の目安にこれも同じグループのもので長期保存で自然乾燥した個体（未熟個体は雌雄各10頭、成熟個体は各6頭）を腹部とその前部（翅を除いて頭部と胸部）の間で切り離して各々の重さを計測した。また参考のために、ほぼ同じ体重の雌雄各1頭を採集直後に腹部と胸部（翅を含む）、頭部、とに切断して各部の重さを測定した。

表1. 未熟個体の体重推定のための基本データ

単位：g, mm

調査日	86.8.8 成熟体		87.8.9 成熟体		87.8.22 成熟体		87.9.14 成熟体		
♂	個体数	46	8.7%	43	2.3%	31	41.9%	6	100%
	体重	0.143	0.187	0.132	0.25	0.176	0.22	0.226	0.226
	腹長	26.3	27.0	26.2	26.2	26.5	27.1	26.9	26.9
♀	個体数	55 16.4%		46 23.9%		70 45.7%		39 100%	
	体重	0.15	0.207	0.157	0.225	0.183	0.23	0.244	0.244
	腹長	26.5	26.8	26.3	26.4	26.1	27.0	27.0	27.0

成熟率の定義は、雌雄共に体重が0.2g以上か腹部が赤化したものとした。

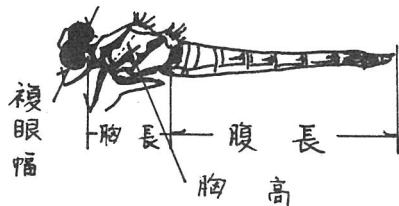


図1. 計測部位

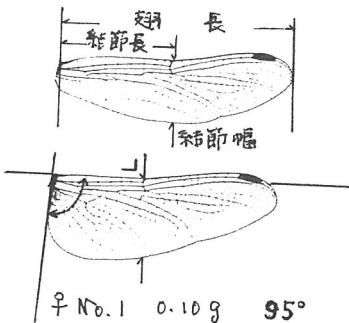


図2. 翅の計測部位

表2. アキアカネ雌雄比較（平均値）

部 位	個 体 数	♂	♀	(♀-♂)	対♂増減%
体 (未熟)	♂46 ♀55	0.091g	0.095g	0.004g	4.4
重 (成熟)	〃	0.211g	0.230g	0.019g	9.0
腹 長	〃	26.3 mm	26.5 mm	0.2 mm	0.8
胸 長	♂12 ♀17	9.7 mm	9.3 mm	-0.4 mm	-4.1
胸 高	♂13 ♀17	4.5 mm	4.2 mm	-0.3 mm	-6.7
複 眼 幅	♂13 ♀16	6.3 mm	6.1 mm	-0.2 mm	-3.2
翅 長	♂46 ♀55	31.7 mm	32.1 mm	0.4 mm	1.3
前 翅	結節迄の長さ	〃	14.8 mm	15.1 mm	0.3 mm
	結 節 幅	〃	7.8 mm	8.0 mm	0.2 mm
	面積(片翼)	〃	217.6mm ²	223.6mm ²	6.0mm ²
後 翅	翅 長	〃	30.5 mm	31.0 mm	0.5 mm
	結節迄の長さ	〃	11.8 mm	11.9 mm	0.1 mm
	結 節 幅	〃	10.1 mm	10.7 mm	0.6 mm
	面積(片翼)	〃	279.6mm ²	294.1mm ²	14.5mm ²
	結 節 幅 比 率	〃	1.29	1.33	0.04
	翅 面 積 比 率	〃	1.28	1.32	0.04
	前縁小膜部角	♂10 ♀10	101°	94°	-7°
翼 面	(未熟)	♂46 ♀55	0.0092g/cm ²	0.0090g/cm ²	-0.0002g/cm ²
荷 重	(成熟)	〃	0.0212g/cm ²	0.0219g/cm ²	0.0007g/cm ²
前 部	(未熟)	♂10 ♀10	0.032 g	0.037 g	0.005 g
荷 重	(成熟)	♂ 6 ♀ 6	0.068 g	0.060 g	-0.008 g
腹 部	(未熟)	♂10 ♀10	0.010 g	0.011 g	0.001 g
荷 重	(成熟)	♂ 6 ♀ 6	0.028 g	0.053 g	0.025 g

2. 計測結果

計測の結果については、表2. アキアカネの雌雄比較（平均値）およびグラフ1～7に示してあるが、主な特徴は次の通りである。

体重：未熟個体の雌は0.095gで雄よりも0.004g(4.4%)重い。これが成熟成虫となると、雌は142%増の0.23gで雄の132%増0.211gよりも0.019g(9%)重くなり体重差が大きくなる。もし雌が産卵間近になると、体重は更に増加し、差はもっと拡大することになる。

腹長：腹長での差は余りなく、雌の方が26.5mm、雄は26.3mmで0.2mm(0.8%)長く、腹部の容積は雌が雄よりも2.4%大きい。(腹長の比の3乗倍)

胸部：胸部の長さは雌の方が9.3mmで、4.1%、中胸の高さ(飛翔筋の長さに相当)4.2mmで、6.7%もそれぞれ雄よりも小さい数値が得られた。胸部の容積は凡そ10数%雄よりも小さいことになる。雌にとってこれは飛翔の際にかなりの負担になると思われる。

複眼：また複眼の幅を測ってみると、これでも雌は3.2%程狭い数値(容積では10%程小さい)が出た。複眼は頭部を含めて前部の大部分を占めているので、これが小さいということは、雌の複眼は雄よりも軽く、従って雌の重心は雄よりも後方にあると推定できる。

翅長：翅では前翅では雄は31.7mm、雌は32.1mmと0.4mm(1.3%)長く、後翅では雄が30.5mmに対し、雌31.0mmで0.5mm(1.6%)長かった。

翅の基部から結節までの長さでは、前翅では雌雄それぞれ14.8mm、15.1mmと雌の方が0.3mm(2.0%)長かったが、後翅では雄が11.8mm、雌が11.9mmと0.1mm(0.8%)しか長くなっていた。

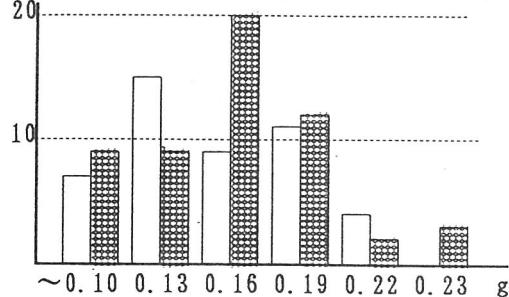
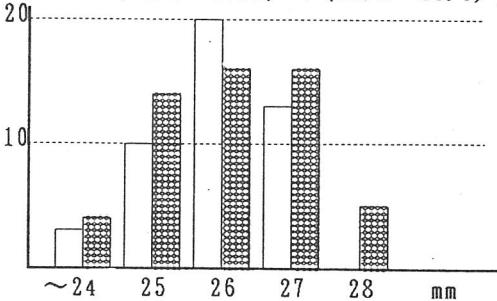
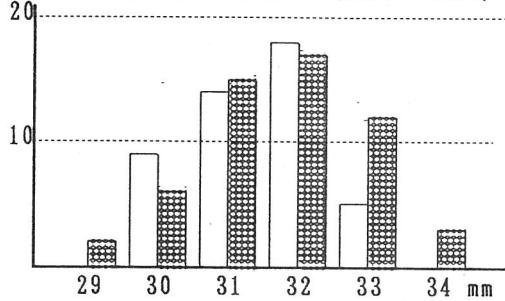
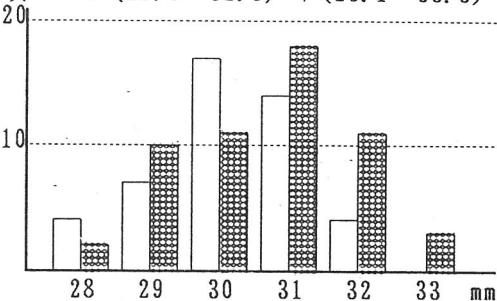
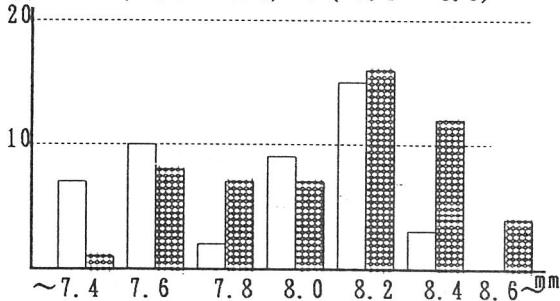
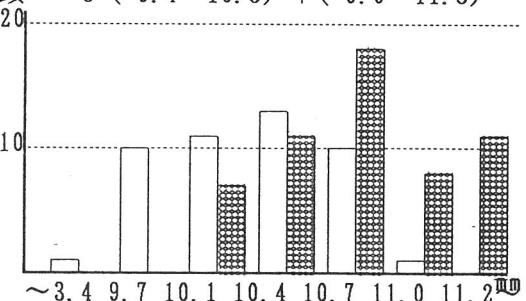
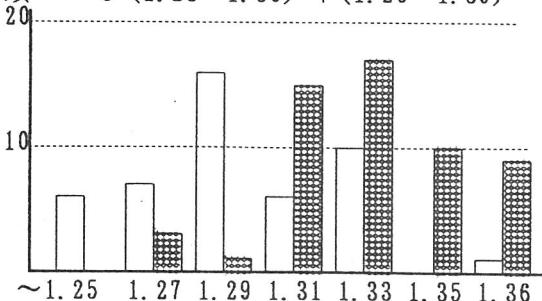
翅の幅：また結節部分での幅では前翅では雄が7.8mm、雌が8.0mmで0.2mm(2.6%)なのに対し、後翅では雄が10.1mm、雌の方は10.7mmと0.6mm(5.9%)も広いのが特徴である。

それで雄の後翅結節幅と前翅結節幅の比と雌のそれを比較すると、雄のは1.29、雌のは1.33で差が0.04(3.1%)あった。

翅面積：翅の面積での比較では(86年採集分から雌雄各10頭抽出)、雄は平均して前翅が217.6mm²、後翅が279.6mm²、雌ではそれぞれ、228.1mm²、297.7mm²であった。これをグループ全体のものに翅長比の2乗倍で修正すると、雄では平均が同じなので変わらず、雌は前翅が223.5mm²、後翅が294.1mm²で、前翅で2.8%、後翅で5.2%雄の翅よりも大きかった。後翅／前翅の比率は、雄で1.28、雌で1.32で3.1%雌の方が大きかった。これは結節幅の比と同じになっている。

つまり雌の後翅が大きいのは、雌の後翅は結節幅が雄のよりも相対的に大きいからといえる。

《 グ ラ フ 》 ♂ □ ♀ ■

1. 体重(未熟)
♂(0.08~0.22) ♀(0.08~0.27)2. 腹長
♂(24.0~27.5) ♀(24.1~28.6)3. 前翅長
♂(30.0~33.1) ♀(29.4~34.5)4. 後翅長
♂(28.6~32.5) ♀(28.1~33.3)5. 前翅結節幅
♂(7.2~8.4) ♀(7.4~8.6)6. 後翅結節幅
♂(9.4~10.8) ♀(9.9~11.8)7. 結節幅後翅前翅比率
♂(1.23~1.36) ♀(1.26~1.39)

後翅の角度：次に後翅における前縁と小膜部の外縁とのなす角度（面積を計測した翅で測った）について比較すると、雄では 101° 、♀では 94° で雌は 7° も狭かった。

翼面荷重：翼面荷重では未熟個体では雌雄での差は殆ど無いが僅かに雌の方が小さく、成熟個体では当然雌の方が増加している。しかし、差は体重の差と比較して小さくなっている。

腹部重量比：乾燥状態の腹部とその前部での重量の比率では、未熟個体では雄が0.31、雌は0.30で、雌の腹部は軽くなっているが、成熟個体では、雄が0.41、雌が0.88で、雌の方が倍以上の数値で、成熟すると雌は相対的に腹部の重量が増加することが判る。

3. 考察

計測データからアキアカネの雌は雄よりも小さい複眼を持ち、胸部も小さく、体重では成熟成虫では雄をはるかに上回り、翅も一回り大きいが、特に後翅が発達していて幅が広いと言える。

雌は成熟するにつれて、重心が後部に移動する。

この成熟過程で、雌は、雄と同様胸部も重量は増加するが、胸部の方が多く増加する。また雌の複眼は雄よりも小さいから、雌は、相対的に後部の、翅の位置よりも後部つまり腹部の重量が増加するから、重心が後部へ移動するものと思われる。

そこで、実際に未熟個体と成熟個体雌雄各1頭の生体に細い虫ピンを胸部に挿して重心位置を探って見た。

体重0.12gの未熟雄では、重心は前翅と後翅の間で後翅の基部近くに、体重0.23gの成熟雄では前翅と後翅の中間近くにあった。

雌では、0.12gの未熟個体の重心は、前翅と後翅の間で後翅の基部近く、0.24gの成熟個体では、後翅よりも約1mm後ろに来ていた。この雌の重心の移動距離約1~2mmの長さは、個体の体長を凡そ42mmとすると、体長の約4%に相当し、後翅面積の雌雄の差を範囲内(5.2%)にあることが判る。

また、重心の調査の直後に、このうち成熟個体の雌雄を頭部、胸部、腹部に切断して各々の重量を計測したところ、頭部については秤量単位が大きいので差は出ず、0.03gで、胸部は、雌0.13g、雄0.14g、腹部は雌が0.08g、雄は0.05gだった。全重量で0.01gの差があるとはいえ、腹部重量では雌の方が、雄よりもはるかに大きかった。これは、乾燥重量の比較で得たデータを裏付けるものであろう。

雌の相対的に大きい後翅は翼面荷重の軽減に役立つ。

また、雌の体重が雄よりも大きく(9.0%)、特に腹部重量の増加量が大きいといつても、翼面荷重では雄よりも3.8%しか増えていない。もし翅の形が雄と相似(前翅はほぼ相似している)していると仮定すると、雌の後翅の面積は、雌雄の後翅長の比率の2乗

倍、つまり1.033倍の288.8mm²となる。翼面荷重は0.0224g/cm²と5.6%増加してしまう。しかし、実際には雌の後翅の面積は相対的に雄よりも大きくなっているから、翼面荷重の増大が避けられている訳である。

後翅は姿勢の制御の役目？

このように、雌の後翅は翼面荷重の軽減に役立っているが、ほかにも役割があるかもしれない。翅の面積を前翅と後翅で違えて、飛翔にどういう影響ができるか、結節部分で左の前翅後翅を切断して室内で試してみた。

雌では前翅の切断では影響が小さく、左旋回の安定した飛翔を1分以上行ったが、雄では左前翅切断では長くは飛翔せず、すぐに照明器具に止まった。

後翅の切断では、雌雄共に尻下がりの飛翔をした。この事実から後翅は雌雄両方にとて姿勢の制御という重要な機能を持っているらしいことが判った。

雌の方が腹長と後翅長との相関度が高い

更に、'87年に採集した個体（個体数 雄20、雌20）で腹長と翅の長さについて、最小二乗法による回帰分析をして両者間の相関をとてみると、雌では、腹長の前翅に対する相関度は0.57で、後翅に対しては0.63だった。これに対して、雄では前翅は0.44、後翅は0.41。雄は前翅との相関度が高く、雌は後翅との相関度が高い。しかも、雌の方が雄よりも全般的に相関度が高くなっていた。

つまり、雌では、腹長が長くなると重心が後部へ移動するから、翅、特に後翅を大きくしなければならなくなることを意味している。このことは、雌の後翅は姿勢の制御に特に強い関連性があることを証明しているものといえよう。

以上のことから、雌の後翅が相対的に雄よりも大きいということは、雌の体重増加による翼面荷重の増加を軽減し、重心の移動による飛翔性能の劣化を避ける、とくに飛翔中の姿勢の制御に役立っていると推定される。

やはりアキアカネの雌は、重心の移動を配慮した形態をしていると思えるのである。

以上述べてきたアキアカネ雌の、雄よりも相対的に大きい後翅という形態的特徴については、アキアカネだけに存在するのではなく、他のトンボ、例えば長距離の移動性のないヒメアカネ *Sympetrum parvulum* Bartenev や シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum* でも確かめられた。そうするとこの特徴は、ある種の昆虫に限られたものではなく、昆虫一般に普遍的に存在しているのではないかとも推量される。

今回の調査は、ある程度個体の成熟が進んでいる時点からのものだったので、未熟個体の体重の決定には問題がある。その他にも、後翅の前縁と小膜部の外縁とのなす角度が雌雄で相違する点も、飛翔の際の翅の動きになんらかの影響があるのでないかとは

推察されるが、現状では判らない。今後はこれらの点も含めて、飛翔の際の翅の使い方や、胸部筋肉組織、腹部組織の発達等について精査するつもりでいる。

4. 終わりに

この調査に当たっては、次の方々から助言や示唆あるいは文献を頂きました。トンボの重心を調べるようにと助言をして頂きました東大の東昭教授、本稿について種々ご指摘くださった枝重夫先生、トンボの翅の機能について示唆して頂いた宮川幸三先生、アキアカネの渡りについての論文をお送りくださった宇都宮大学の田中正教授、アキアカネの生態で種々教授して頂いた新井裕氏や石川一氏へこの欄を借りて厚く謝意を表します。

参考文献

- Corbet, P. S., 1983 A biology of dragonflies. E. W. Classey LTD, Oxon.
Evans, H. E., 日高敏隆訳 1985 虫の惑星 早川書房, 東京.
朝比奈正二郎 1971 動物系統分類学 7(下B) 第2目トンボ目 中山書店, 東京.
枝 重夫 1976 トンボの採集と観察 ニュー・サイエンス社, 東京.
宮川 幸三 1976 秋季川越市周辺にみられるアキアカネの移動群集について
Gracile, 20:5-6.
久田光彦 1977 トンボの飛行術 アニマ 52(7) 36-40, 平凡社, 東京.
新井 裕 1982 埼玉県トンボ観察記 65-70.
田中 正 1985 アキアカネの移動(1984年) インセクト, 36(1) 1-9.
石川 一 1985 アカトンボ属の移動に関する一小観察 昆虫と自然, 20(9) 29.
東 昭 1985 生物・その素晴らしい動き 共立出版, 東京.

(いしざわ なおや 画359 所沢市山口 1644-15)

· · · · ·

南と北の蝶採集記（1987年）

小野寺 博昭

· · · · ·

1987年は5月に南西諸島の石垣島と西表島、7月には北海道へ蝶採集に出掛けた。以下はその時の記録である。

第3次八重山蝶採集旅行=1987・5・21～5・25

5月21日（木）

- J A L 901便(8:50 A.M. 羽田発)にて那覇へ向かう。
機材はB-747(JA 8176)。半年前からB-747については機内に公衆電話を設置したこと(@¥500/分)。早速妻にTEL. 又、僅かの間に禁煙席が大幅に増加しているのには驚いた。機内では、例によって、一生懸命三角紙折りにいそしむ。11:25A.M. 那覇空港に着陸。晴れしており、本土なら真夏の陽気である。
- S W A L 611便 1:00 P.M. 発(機材=B-737, JA 8443)で那覇空港をTAKE OFF, 石垣空港へ向かう。那覇空港、宮古上空は晴れていたが、石垣空港の滑走路は雨に濡れた跡があった。しかし、日差しは強く大いに期待を持たせた。

だが、それは希望的観測にしか過ぎないことをすぐ思い知らされることになった。石垣島の晴れ間はオモト岳の麓に着いた3:30P.M.頃まで。登山道入り口から早くも降り出し、あとはずっと降りっ放し。上からは雨、レイン・コートの下からは汗、中腹で既にグショ濡れ。亜熱帯に属する沖縄では、レイン・コートは殆ど役に立たない。

- 頂上付近に オモロカンアオイ が分布していた。

ひどい降りで勿論お目当てのアサヒナキマダラセセリはまったく姿を見せず、今日ばかりは「植物屋」に変身である。葉の肉質はやや厚手で、斑入りのものと斑の無いもの、そして極めて特徴的な葉は、霜降り状の斑紋を有するものである。花は白っぽく、比較的大きいものでないと花を付けていない。花付きのものを探すのにかなり苦労した。葉は三角に近い。土壌は粘土質で、今までに観察したカントウカンアオイ、タマノカンアオイ、コシノカンアオイ、ウスバサイシン、ズソウカンアオイなどの生息環境の土質とは異なっている感じだ。

- 蝶の方は、頂上で破損したツマグロヒョウモンを2♂♂、麓でユウレイセセリを2exs. 採集したのみ。今夜は展翅の作業がなくて手持ち無沙汰。

5月22日（金）

- 予定していた9:00発のマリンスターより30分早く出航する「安栄丸」で西表島船浦へ。約1時間で到着。天気は極めて良い。とにかく暑い！

迎えの車が来る前に先ずツマベニチョウを採集、一昨年沖縄本島（ひめゆりの塔）で採集したものより少しマシか。1度完品を捕まえたいが中々もってチャンスは少ない。今回も船浦と浦内で2度ばかり可能性があっただけ。

- 一旦、「星砂荘」に荷物を置き、バイクで浦内（月ヶ浜）へ向かう。浦内は非常に蝶影が濃く、極めて良い採集地だ。幸運よく、先ず11:00A.M.に タイワンアオバセセリを採集。11:20A.M.に採ったセセリチョウは生態図鑑で見覚えのあるヤツ、なんと テツイロビロウドセセリ ではないか！期待していなかっただけに嬉しかった。

- 11:25A.M.に漸く目的の「タイワンキマダラ」（合計4頭）、次いで12:50P.M.完品には程遠いが「シロオビヒカゲ」と、今日だけで新規採集品は4種。他にベニモンアゲハ、オオゴマダラ、ネットタイアカセセリ、オキナワビロウドセセリ、ユウレイセセリ、アマミウラナミシジミ、ヒメウラナミシジミ等を採集、大いに気を良くした。

ただ帰りにバイクが故障し、炎天下バイクを押して歩くのには閉口した。星立でもタイワンキマダラを目撃した。

- 祖納では診療所付近でカバマダラを採集、宮古以来である。TV塔のある祖納岳頂上まで登ったが、スミナガシは飛来せず、また、シロオビヒカゲも見当たらず、労多くして益少なし。帰途は破損したウスイロコノマを2頭採った程度。こんなことなら浦内でジックリ腰を据えていた方が良かったようだ。

夕方からシロオビヒカゲを狙おうと思っていたが、雨が降りだし、果たせなかった。しかし好天気に恵まれ、思う存分採集気分を満喫し、満足のいく1日だった。明日は白浜と白浜林道へ出掛けてみよう。

5月23日（土）

- 終日雨。雷雨の中、白浜でテツイロビロウドセセリの幼虫採集。デリスの硬化した深緑色の葉には巣はなく（古い食痕があるので、おそらく斯様な葉には造巣しないのだろう）、茶色の新葉には若齢幼虫が、茶色から明るい緑色に変わった時期の葉には中齢又は終齢幼虫が造巣するようだ。

5月24日(日)

- ・朝7:20A.M.送迎バスで祖納を出発、8:00出航の「第8安栄丸」で石垣島に向かう。新造船らしく往路と違って、所要時間45分で港に着いた。石垣港で2つ目の郵便物として、デリス、テツイロビロウドセセリ幼虫の一部、衣類を送る。
- ・今日も朝からパッとしない天気だが、今旅行中2度目のオモト岳に挑戦することに決めた。

10:10A.M.に登山道入り口に着いたが、登山道に入るや否や、ドッと降りだし、レイン・コートを着て傘を片手に登り始める。蒸し暑いので、レイン・コートの下は汗でグッショリ。頂上には11:00A.M.に到達したが、頂上は雨とガス。目の前のTV塔がアッという間に姿を隠す。一陣の風がリュウキュウチクの群落をざわつかせ、雲が正反対の方向に流れ、寒さにガタガタ震える。レイン・コートは防寒着に変身した。11:25A.M.雨中飛來したアサギマダラを採集。残念ながらタイワンアサギマダラではなかった！でもこの蝶は私のお気に入りの種だ。12:10P.M.雨がやや小降りになったところで、雨中の2度目の挑戦に同情してくれたかのように、待望のアサヒナキマダラセセリ1♀が飛来!!登った甲斐があったというものだ。その後も天候は回復せず、又、迎えのタクシーとの約束が3:00P.M.であることもあって、2:00P.M.に下山し始めた。途中オモロカンアオイを観察しながら下りたため、登山道入口には3:30P.M.と30分の延着となってしまったが、タクシーは待っていてくれた。(この辺が本土とエラく違うところだ。)

- ・そのままバンナ岳に向かい、5:30P.M.頃まで採集。
- ・第1鉄塔では、4:00～4:55P.M.の間、スミナガシがテリトリーを張っており、時々近くに飛来し、鉄塔内の軒や壁、目の前の鉄柵に止まるのだが、非常に敏感且つネットの振れない所や届かない所に止またりするので、腹ばいになってフェンスの下の隙間から鉄柵内に入ったり出たりして悪戦苦闘したが、とうとう捕獲できなかった。

こここのスミナガシは間近で見ると、青というよりむしろ非常に黒っぽく見える。新鮮な個体で採りたかったのだが。。。。。

- ・夜、妻に電話したところ、裏が白いゼフが大分羽化しているとのことだ。“裏が白いゼフ”というのは多分「キリシマミドリシジミ」だろう。早く見たいという楽しみと容器内で飛び回って鱗粉が落ちてしまっているのでは。。。という不安とが交錯する。

5月25日(月)

- ・愈々最終日になってしまった。(10日間位だと最高なのに！)
朝、まずバンナ岳入口に。

ここは前回も確認したが、なぜかいろいろな蝶が集まる所で蝶影が濃い。(もっとも今回は、めぼしい物と言えばヤエヤマイチモンジの♀を初採集した程度だったが。)他にコウトウシロシタセセリを目撃。1日ここ腰を据えるのも面白いかもしれない。

・次いで裏バンナへ向かう。ヤエヤマイチモンジの溜まり場があり、2♂♂2♀♀を採集。そして12:05P.M.「イワカワシジミ 1♀」を初採集！！。これで今回の新規採集種は5種となる。それと昨日バンナ岳展望台下でネット・インしながら採集し損ない、今日裏バンナに着いて早々にも採り損なって、今回は縁が無いかなと思っていたルリウラナミシジミの♂を漸く1頭とめた。昨秋と比較すると非常に少ない感じだ。クロアゲハの完品1♂も採集、他にコノハチョウ2♂♂が翔んでいたが、いずれもボロ。

・3時間足らずの間だったが、イワカワシジミ、アマミウラナミシジミ、ヒメウラナミシジミ、ルリウラナミシジミ、ヤエヤマイチモンジ、クロセセリ、タイワンアオバセセリ、カラスアゲハ、クロアゲハと、曇り空で時折小雨がパラつく天気だったが蒸し蒸しし、気温が高く、結構いろいろな種類が採れた。

未練を残しながら、12:50P.M.採集を切り上げ、石垣空港へ向かった。

・2:30P.M. SWAL 612便(B-737, JA8445)で石垣空港をテオク・オフ。

飛行機の窓から見えるバンナ岳との再会は今度はいつになるかななどと思っているうちに石垣島も忽ち視界から消えてしまった。

・那覇空港には3:20P.M.に到着。空港内にある三越で妻と子供達への土産を買い、5:00 P.M.発の東京行き最終便JAL 908便(DC-10, JA8543)に搭乗。羽田空港には7:30P.M.にランディング。第3次八重山蝶採集旅行は終わった。

[第3次八重山蝶採集旅行について]

[1] 総 括

八重山では既に10日前から梅雨入りしており、雨に祟られたとは云うものの、未採集記録種リストから外すことの出来た5種「テツイロビロウドセセリ」「タイワンアオバラセセリ」「シロオビヒカゲ」「イワカワシジミ」「タイワンキマダラ」をはじめ、「クロアゲハ（南西諸島産は初めて；♂）」「オオゴマダラ」の完品各2頭、「ルリウラナミシジミ（1♂）」、また2頭目の「ベニモンアゲハ（2exs.）」「ネッタイアカセセリ（1♂）」「ツマベニチョウ（1♂）」「トガリチャバネセセリ」「リュウキュウヒメジャノメ（4exs.）」宮古以来久々の「カバマダラ」、他に雨中白浜で採集した「テツイロビロウドセセリ（幼虫）」・・・等々と、晴れたのは5月22日の1日のみだった割にはそこそこ成果が上がったと云える。さすがは蝶の宝庫南西諸島と云ったところか。ただオモト岳に2度挑戦したため、今回だけは川平まで回れなかったことが心残りである。

[2] 蝶の動向

- (1) 「アマミウラナミシジミ」に新鮮な個体、しかも♂が多く、多分何回目かの発生期に当たって採集適期だったのではないかと思われる。(石垣島バンナ岳他)
- (2) 「クロセセリ」は裏バンナでは既に擦れた個体だったが、オモト岳の中腹から上では新鮮であり、取るに足らない高度差のように見えて南西諸島なりに標高差が影響するのかも知れない。
- (3) 「タイワンアオバセセリ」については♂♀両方採れたこと及び西表島でも石垣島でも採れたこと、目撃個体数も多いことから、何度目かの最盛期に当たっているのではないかと推測される。
- (4) 「コノハチョウ」は一昨年5月、今年の5月、昨年10月と何れも新鮮な個体に遭遇しない。少なくとも5月に完品は無理なようだ。(裏バンナ)
- (5) 「ミカドアゲハ」「ウスキシロチョウ」は今回全く見当たらなかった。端境期なのかも知れない。
- (6) 「ヤエヤマムラサキ」「リュウキュウムラサキ」については目撃さえも出来なかつた。
- (7) 「テツイロビロウドセセリ」の幼虫は若齢、中齢、亜終齢、終齢の各ステージが総て見られた。(白浜)
- (8) 「クロアゲハ」は♂♀とも新鮮な個体が多かった。(バンナ岳)
- (9) 「ナガサキアゲハ」♂のかなり破損した個体を目撃した。(オモト岳)
- (10) 「コウトウシロシタセセリ」は、今回はバンナ岳入口で1ex. 目撃したのみ。
- (11) 「ジャコウアゲハ」「カラスアゲハ」は結構目撃した。
- (12) 「カバマダラ」は昨年10月には全く見掛けなかったが、西表島祖納及びバンナ岳入口で採集した。

以上

北海道蝶採集旅行=1987・7・23~7・28

7月23日(木)

・羽田12:30発T D A 125便(機材=A-300)にて家族全員で旭川へ。。。。旭川空港には2:05P.M.に着いた。天候は雨。当地は、まるで本州のお株を奪ったかのように梅雨並の長雨続きで、農作業に支障を来すほどだということだ。空港でレンタ・カー(BLUE BIRD)を借り「旭川ワシントンホテル」へ。ホテルに親類の者が訪ねてくれ、彼の車で江丹別へ向かう。途中、書店で「北海道の蝶」(永盛拓行&俊行、坪内純、辻規男共著; 北海道新聞社, ¥2000)を購入。夜、上川郡剣渕町の毛利恒雄氏を訪問。氏は以前

は蝶屋で現在はカミキリ主体に採集している由。

オサムシもやっているようだ。談話会の竹内さん用のお土産に北海道特産の美しいオサムシを戴いた。(ただ帰宅してリュックから取り出す時に、勿体ないことに、潰してしまった。竹内さんのガッカリする顔が目に浮かぶ。)

途中から農業の話しになったが、農業とは天候、害虫、雑草等々・・・正に「自然との闘い」そのもので一瞬たりとも気を抜けない厳しいものだということが窺い知れた。

農業の傍ら好天の日に採集に出掛けるのは、農作業にも好適な日を放棄するワケで、中々大変な様子。そのツケは忽ち20万円、30万円の損害となって跳ね返ってくる由。江丹別町のゴマシジミ、三国トンネル付近のクモマベニヒカゲのポイントを教えて戴き毛利氏を辞去した。

7月24日(金)

・朝のうちは雨が残っていたが、10:00A.M.頃から晴れて來たので、昨夜毛利氏に教わった江丹別のゴマシジミのポイントへ向かったが、ナガボノシロワレモコウは見当たらず、ゴマシジミも見掛けなかった。本日唯一の収穫は実に華麗なミヤマカラスアゲハ1♂のみ。今まで採集した中でも最も美しい個体である。

2日間経過して北海道特産種は未だゼロ、少々焦りを感じる。ホテル好きの子供達は例によって大満足。

7月25日(土)

・今日は朝から上々の天気。気合を入れ、7:00A.M.過ぎには妻の運転で一路層雲峠へと向かう。道路が真っすぐで車も少なく、我が女房殿は至極満足の体。

9:00A.M. 幸先良くな エゾシロチョウ を採集! 次いで9:15A.M. に相当古びた個体であるが、シロオビヒメヒカゲ を採集し、3日目にして漸く北海道特産種を得た。次に談話会の樋田氏が教えてくれた大雪ダムの林道のポイントに入った。ここは樋田氏が推奨するだけあって中々良い採集地で、ヒメウスバシロチョウ、エゾシロチョウ、カラフトタカネキマダラセセリ、カラフトヒヨウモン、コヒオドシ等が次々と採れた。小3の息子は完品のベニヒカゲを採集し大得意。それにしても親子4人、各々ネットを手にして林道を進むさまは、まるで一寸した「探検隊もどき」といったところで、何やらおかしみを感じる。午後は毛利恒雄氏が教示してくれた大雪ダムから糠平湖へ向かう途中にあるクモマベニヒカゲのポイントに出掛けたが、着いた途端に雨が降りだし、目的を果たせなかった。ただ、地元の蝶屋さんが「クモベニですか?」と問い合わせたところをみると、やはりここは間違いなくクモマベニヒカゲの好ポイントなのだろう。

7月26日(日)

・昨日一応北海道特産種ゼロの状態を脱したので、今日は悲壮感を漂わせることなく、途中まで昨日と同じルート(国道39号線)を走り、安足間(アンタロマ)から入って愛山渓へと向かった。さすがに遅すぎるとみえてオオイチモンジは目撃すら出来なかつたが、ホソバヒヨウモンは辛うじて間に合い6頭採集できた。又、エゾシロチョウが多く(といつても採集したのは5頭だけだが)、あとは本土産から較べると随分黒っぽいコムラサキがテリトリーを張っていたので、遠慮会釈なく4♂♂を採集した。発生初期と見え、何れも完品だった。他にもミヤマクワガタを1♂採つたので、小3の息子に何気なく渡したら幼稚園の娘が「私が欲しかったのに・・・」と怒ったり愚図つたりで宥めるのが大変だった。

帰途、日産レンタカーの空港営業所に立ち寄り、4日間お世話になったブルーバードを返却(走行距離420Km、料金¥44,000)し、タクシーでホテルに戻つた。個人タクシーの運転手さんの話では、今年は若い女性観光客が少ないとのこと、円高のメリットを生かして海外に行っているのだろう。

7月27日(月)

・エル特急「ライラック2号」「北斗4号」を乗り継ぎJR千歳空港駅へ向かう。樋田氏が教えてくれたポイントでゴマシジミを11頭採集。殆どが完品だ。山梨県茅ヶ岳産のものと較べると著しく小型の個体で、まるでミニチュアのようだ。ワレモコウを探してみたらナガボノシロワレモコウが見付かつた。そこで気が付いたのは、花はまだ緑色であり白くなつていなといふことだった。白い花に囚われていたので見付からなかつたワケだ。剣渕町の毛利氏が教えてくれた江丹別町のポイントにもまだ花が緑色のワレモコウが多分あったのだろう。

他にフタスジチョウ(後翅の白帯が広い北海道亜種)を初採集。その他ではコキマダラセセリが最盛期とみえ、殆どが新しい個体で且つ数も多かった。

結構大型のノコギリクワガタが採れたので、今度は娘のものにした。娘は至極満悦の体で御機嫌頗る麗しくなつた。2:00P.M.過ぎに採集を切り上げ札幌へ向かう。(千歳空港発14:51、札幌着15:33)

札幌不二ホテルは中々良いホテルで、明らかに旭川ワシントン・ホテルより一格上だ。着替えてから皆で大通り公園へ。ここでビールを飲んでいる勤め帰りのサラリーマン達殆どが上着を着たまま。涼しさのほどが分かる。

妻と子供達に時計台を見せ、狸小路で土産物を買った後、すすき野で北海道最後の夕食を味わう。息子が市電に乗つてみたいと言うので、大回りしてホテルに戻つた。

7月28日(火)

・朝、10:00A.M. 過ぎに「札幌不二ホテル」をチェック・アウトし、10:55発の列車で千歳空港へ(11:46着)。昼過ぎから昨日のポイントで再びゴマシジミを採集、堪能した。最後にボロボロの個体だが、カバイロシジミ 1♀を採集、僅か1時間半だったが、効率良く採集出来た。

これで今回の旅行中の新規採集種は9種、うち北海道特産種はヒメウスバシロチョウ、エゾシロチョウ、シロオビヒメヒカゲ、カラフトタカネキマダラセセリ、カラフトヒヨウモン、ホソバヒヨウモンの6種、他にコヒオドシ、フタスジチョウ、カバイロシジミの3種といった具合に第1回目の北海道旅行にしては上々の成果だった。

15:15発のTDA106便で千歳空港を飛び立ち、羽田空港には16:35にランディング、我が家には携帯用展翅箱と共に7:00P.M.頃帰着いた。

(おのでら ひろあき 画363 桶川市泉 2-19-50~4-119)

長野県野辺山高原の蝶

松田 幸弘

1987年8月5・6日、八ヶ岳東麓に広がる長野県南佐久郡の野辺山高原を訪れ、若干の蝶を採集したので報告する。なお本文中の各記号はそれぞれ、①新鮮、②汚損度中位、を表し、採集個体は筆者が保管している。

採集地は主に同高原の滝沢牧場周辺、海の口牧場周辺、国道脇の草地などであるが、一部、長野県川上村梓山から埼玉県境の三国峠へ至る間での記録も含まれている。

当日は天候が悪く殆どが8月6日の記録である。

ミヤマカラスシジミ	1♀(①)
スジボソヤマキチョウ	1♀(①)
ギンボシヒョウモン	1♀(①)
ウラギンヒョウモン	1♂(①)
ウラギンスジヒョウモン	1♂(①)
コヒョウモンモドキ	1♂(①)
※ スミナガシ	1♂(①) 梓山、三国峠間の林道
※ アサギマダラ	1♀1♂(①) "

その他、5日・6日の2日間で次の蝶を目撃した。

ミヤマカラスアゲハ	数頭
カラスアゲハ	"
アゲハ	1ex.
ミドリシジミ	1♂(①). 数頭
ウラゴマダラシジミ	2exs. (②)
トラフシジミ(夏型)	1ex. (①)
ミドリヒョウモン	1ex. (①)
ヒメアカタテハ	1ex. (①)
イチモンジチョウ	数頭
※ サカハチチョウ(夏型)	2exs. (①) 梓山、三国峠間の林道
※ エルタテハ(?)	1ex. "
※ アサギマダラ	3exs. "
ジャノメチョウ	各地に多数
キマダラモドキ	1ex. (①)
キバネセセリ	1ex. (①)

アカセセリ	1ex. (①)
キマダラセセリ	1ex. (①)
褐色系セセリ類	数頭

(まつだ ゆきひろ 画350-03 鳩山町今宿 297)

· · · · · · · ·

三国峠とその周辺の蝶

松田 幸弘

· · · · · · · ·

1987年8月13・14日の2日間、蝶の生態写真撮影と採集を目的に、奥秩父中津川渓谷から県境の三国峠を経て長野県川上村梓山へと出向いた。

両日の天候は朝のうちこそ晴れていたが、徐々に雷雲が広がり雨や風が吹き出した為、必ずしも蝶の採集には適しておらず、個体数も少なかった。以下はその際に採集、目撲された記録であるが、報告にあたり各記号を、①新鮮、◎汚損度中位、●汚損とし、目は目撲記録、他はすべて採集個体であり筆者が保管している。また、採集した時間帯は2日間とも午前9時～午後2時までの間であり、採集地は三国峠を中心に概ね次のように整理した。（各地への移動は車による）

林道1・・・奥秩父中津川集落奥の料金所跡から県境の三国峠に至る間。

林道2・・・県境三国峠から長野県梓山へ至る間。

林道3・・・長野県梓山から国師岳へ至る間。

三国峠・・・主に本峠から梓山無線中継所へ至る間。

中津川・・・奥秩父中津川集落奥の料金所跡周辺の草地。

8月13日（木）晴～曇

ミヤマカラスアゲハ（夏型）	1♂(①).	数個体	目	林道1
カラスアゲハ（夏型）	多數	目	"	
ルリシジミ	数個体	目	"	
スジグロシロチョウ	数個体	目	"	
スジボソヤマキチョウ	1♂(①).	1ex.	目	"

モンキチョウ	1♀ 1♂(①)	目	三国峠
キベリタテハ	1♂(①). 1ex.	目	"
クジャクチョウ	2♀ 1♂(①).	数個体	"
"	1ex.	目	林道 1
シータテハ(夏型)	2exs. (①)	目	三国峠
エルタテハ	1♂(①)		"
アカタテハ	1♀ (①)		"
ヒオドシチョウ	1♂(①)		"
サカハチチョウ(夏型)	1ex. (①)		"
スミナガシ	1♀ (①)		中津川
"	1ex.	目	林道 1
テングチョウ	1ex.	目	三国峠
アサギマダラ	3exs.	目	林道 2
ヒメキマダラヒカゲ	1ex.	目	三国峠

8月14日(金)薄曇~雨

ミヤマカラスアゲハ(夏型)	数個体	目	林道 1
カラスアゲハ(夏型)	数個体	目	"
キアゲハ	1ex.	目	三国峠
スジグロシロチョウ	数個体	目	林道 1
キチョウ	数個体	目	"
モンキチョウ	1♀ 1♂(①)	目	三国峠
クジャクチョウ	3exs. (①)	目	"
シータテハ(夏型)	2♂(①). 数個体(①)	目	中津川
"	1ex. (①)	目	林道 3
"	1ex. (①)	目	三国峠
エルタテハ	1♂(①)		林道 3
ルリタテハ	1ex.	目	林道 1
"	1ex. (●)	目	中津川
キタテハ(夏型)	数個体(◎~●)		"
スミナガシ	1ex.	目	"
オオミスジ	1ex. (①)	目	林道 1
ホシミスジ(?)、	1ex.	目	三国峠
コミスジ	数個体	目	中津川
アサギマダラ	1♀ (①)		林道 2
アオバセセリ	2exs. (①)		中津川

(まつだ ゆきひろ 画350-03 鳩山町今宿 297)

.....

カラスアゲハの食草について

星野 正博

.....

カラスアゲハ *Papilio bianor* (CRAMER) の食草の嗜好性についての観察を報告する。観察地はすべて与野市下落合（主に自宅）である。

過去30年間ほどの観察では（特に熱心かつ継続的に調べたわけではないが）アゲハ、クロアゲハに比べて幼虫、成虫の個体数はかなり少ないと感じている。それは主にこの付近の食草の分布と関係があるのではないかと思う。この付近に普通に見られるアゲハ類の食草はミカン類（近年、庭木としてミカン類を植える家庭がかなり見られる）、カラタチ（近年、垣根として使う例が減少しているように思われる）、サンショウなどで、これらをカラスアゲハはあまり好まないようである。カラタチでは1960年前後に1回だけ学校帰りにある家の垣根で観察して以来確実な例を昨年の1例まで見ていない。ミカンでは1984年に1例観察しているがその後の観察例はない。サンショウ、コクサギについては今年が初めてである。

自宅では13年ほど前にイヌザンショウを寄居あたりから移植しそれが成長後はかなり見かけるようになった。年により発見できる数こそ異なるが10頭前後の幼虫（休日の観察だけで）は確実に見られた。これらの個体の親がこの辺りに住みついたため多いのか、フリーの個体が食草に誘引されて来るのかは不明である。以前、川口市差間のコクサギ群落にオナガアゲハが住みついていた例や浦和市内のT氏宅の食草にジャコウアゲハ、アオバセセリが住みついているという例などからして前者の可能性が大であろう。ところが昨年は例年と異なりイヌザンショウには1匹しか発見できず、下記のデータのように例年見たことのない3種類の食草（これらは20年以上自宅にある）についているのを観察した。食草の好みも当然遺伝するとは思うがそのような裏付けは別として例年と異なる個体群が来たのかなという思いである。

以下に食草の観察例を列記する。特に記したもの以外は終齢幼虫を観察

カラタチ	1960年頃 1頭、1987年8月 1頭（いずれも日当たりの良い垣根） 1982年6月12日カラタチの垣根に近いサツキにおいて羽化した♂を観察
ミカン	1984年6月24日 脱皮直後の5令幼虫
サンショウ	1987年8月25日（産付卵）、1987年10月 各1頭（いずれも日蔭）

コクサギ 1987年6月(4頭) (半日陰)

イヌザンショウ 1970年代中頃から昨年まで毎年10頭前後(日当たり、日蔭)

1987年10月(1頭)

原色日本蝶類生態図鑑 I巻 121ページのカラスアゲハの記載を引用すると
 <食餌植物> コクサギ、キハダ、ハマセンダン、カラスザンショウ、サンショウ、イヌザンショウ、カラタチ、ミカン、ユズ、ヒラミレモン、ミヤマシキミ、などのミカン科各種。地域によって食樹が異なる傾向があるが、それぞれ、その地においてもっとも利用しやすい食樹を選んでいることに起因するものと思われる。

一般に北海道や本州高地帯ではキハダ、本州・四国・九州の中標高山間部ではコクサギ、沿岸部の低山地ではカラスザンショウ、・・ 以下省略

これらのことから考えて見るといろいろな食草があっても好んで食べるものは限られており与野市内においては特に嗜好する野生食草がないので個体数が少ないのであろう。

(ほしの まさひろ 画338 与野市下落合 5-14-31)

コアシナガバチの巣は冬でも危険

星野 正博

寄せ蛾記第49号に巣瀬司氏が書いた記事によると冬のハチの巣は危険がないので取つておいて欲しいという記事を見て、1988年1月に自宅の南面に昨春より営巣していたコアシナガバチの巣を取ろうとした。壁との接続部分が大変に丈夫で取れないため、巣面に手を回して巣をつかんだ所、指に痛みを感じた。巣を取り見たところ頭から巣内にもぐりこんで越冬している成虫が4頭いた。このどれかが刺したわけであるが、すぐに手を離したためか、15分ほどで痛みは取れた。巣を室内に置いた所暖房のために成虫は動き出した。この日の昼もやや暖かったので(この年は暖冬であった)ハチは活動出来る状態にあったと推定される。これらは室内でビンに入れておいた為に活動し過ぎて春を待たずに死亡した。冬に朽ち木を割って取り出すスズメバチでもやがて動き出しあることもあり、いずれにせよ冬のハチにもご用心という訳であります。越冬中の巣内のハチに刺されたという記録は無いだろうとの指摘があったので報告いたします。

(ほしの まさひろ 画338 与野市下落合 5-14-31)

利根川河川敷の蝶

平山 精孝

利根川河川敷における若干の蝶の記録について報告する。

1. 国道407号が利根川と交叉する刀水橋付近

1986年9月13日（晴）

ヒメウラナミジャノメ	多数	ギンイチモンジセセリ	8
イチモンジセセリ	多数	ヤマトシジミ	多数
ベニシジミ	多数	ツバメシジミ	6
アカタテハ	1	ヒメアカタテハ	4
キタテハ	4	キチョウ	多数
モンキチョウ	多数	モンシロチョウ	多数
キアゲハ	多数	ナミアゲハ	3

2. 国道122号線が利根川と交叉する昭和橋付近

1984年8月26日（晴時々曇）

ギンイチモンジセセリ	1	キタテハ	多数
ツバメシジミ	2	ヒメアカタテハ	多数

1986年9月6日（曇時々雨）

ヒメアカタテハ	多数	ヒメウラナミジャノメ	多数
ツバメシジミ	多数	ヤマトシジミ	多数
ベニシジミ	多数	キタテハ	3
ギンイチモンジセセリ	4	イチモンジセセリ	多数
キアゲハ	1	ナミアゲハ	1
ジャコウアゲハ	1	キチョウ	5
モンシロチョウ	多数	モンキチョウ	2
アカタテハ(幼虫)《カラムシにて》	多数		

3. 東北自動車道が利根川と交叉する付近

1986年10月4日（晴）

キタテハ	2	イチモンジセセリ	多数
キチョウ	多数	モンシロチョウ	2
モンキチョウ	3	ツバメシジミ	2
ヒメジャノメ	2	以上	

（ひらやま きよたか 画333 川口市安行領根岸 1826-18 三井鉱山アパート112号）

新 座 の 蝶

木通 田 光

少々古い記録であるが、筆者が所属していた立教高校生物部の部誌「生物の窓」に、新座周辺の蝶に関する記録が記載されていたので、ここに報告する。尚、原文は部誌3号分にわたって書かれているので、記録日時以外は筆者が文面を簡略化した。

(文中の1次調査とは1964~66、2次調査1973~75のこと)、1次調査は個体数については未報告、*は複数記録あり、△は1回のみ、×は記録なし。)

種 名	1964 66		1973 75		備考
アゲハチョウ科					
1)アゲハ	*	*			人家の庭のミカン、カラタチ、サンショウ等で発生。
2)キアゲハ	*	*			畠のニンジンよりも柳瀬川のハナウドから多く発生(少ない)。
3)アオスジアゲハ	*	*			夏に林の上を飛ぶが、多くない。
4)クロアゲハ	*	*			あまり多くはない。
5)ジャコウアゲハ	*	×			73年以降の調査では記録がない。
6)カラスアゲハ	*	*			最近は非常に少ないようだが、筆者のいた'67年当時は幼虫がとれた。
シロチョウ科					
7)モンシロチョウ	*	*			林内にはいない。
8)スジグロシロチョウ	*	*			前種とは住み分けており林内に多い。
9)キチョウ	*	*			秋に校内の草原にいるが少ない。
10)モンキチョウ	*	*			校内の草原に多い。クローバーで発生。
11)ツマキチョウ	*	*			4月下旬に校内で見られるが少ない。
12)ツマグロキチョウ	*	×			73年調査以降記録なし。絶滅か?
タテハチョウ科					

13)キタテハ	*	*	夏から秋まで見かけて多い。
14)アカタテハ	*	△	2次調査では24-X-1974の記録のみであるが、恐らくもつといはるはず。
15)ヒメアカタテハ	*	*	秋に多いが、春には稀。
16)ルリタテハ	*	*	最近は激減した様子。
17)ヒオドシチョウ	*	*	産卵期の4月と羽化期の6月以外はほとんど見られない。
18)ゴマダラチョウ	*	*	夏期、林内の樹液に多い。
19)コムラサキ	*	*	年により個体数の差がかなり変動する。 '75は多かった。ヤナギで発生。
20)イチモンジチョウ	*	*	5~9月に林の中に多い。
21)アサマイチモンジ	*	△	前種に酷似しているので同定に注意。 2次調査では5-VII-1974のみ。
22)ミスジチョウ	*	△	2次調査では8-VI-1974の1♂のみ。
23)コミスジ	*	*	林の周辺部に多い。
24)ミドリヒョウモン	*	△	秋に山地から移動してくるようである。 記録は28-IX-1973のみ。
25)オオムラサキ	*	×	もうこの付近では見ることが出来ないが、'73年に平林寺にて記録あり。
ジャノメチョウ科			
26)ジャノメチョウ	*	*	7月下旬に明るい草原で少し見ることができる。
27)ヒメジャノメ	*	*	林の中に多い。
28)コジャノメ	*	×	1次調査の記録は前種の誤りではないか？
29)サトキマダラヒカゲ	*	*	梅雨ごろに非常に多い。
30)ヒカゲチョウ	*	*	夏、林内に多く夕方活発になる。
31)クロヒカゲ	*	×	1次調査の記録は前種の誤りではないか？
32)ヒメウラナミジャノメ	*	×	驚くべき事に、2次調査では記録されていない。 調査不足か？
シジミチョウ科			
33)アカシジミ	*	*	6月初めに稀に見ることができる。
34)ミズイロオナガシジミ	*	*	6月、クヌギの樹上にいる。7月までみられる。
35)ミドリシジミ	*	×	2次調査では記録なし。荒川の河川敷にはいた。
36)ベニシジミ	*	*	最も早くから発生する蝶のひとつ。
37)ツバメシジミ	*	*	ごく普通種であるが春に多い。
38)ゴイシシジミ	*	*	林下に多い。

39)ウラナミシジミ	*	*	秋に南から移動してくるが、冬は越せない。
40)ヤマトシジミ	*	*	ごく普通にみられる。
41)ルリシジミ	*	*	春から秋までみられる。
42)トラフシジミ ウラギンシジミ科	*	△	2次調査では14-VII-1975の一回のみ。
43)ウラギンシジミ セセリチョウ科	*	△	2次調査では11-X-1973の一回のみ。
44)イチモンジセセリ	*	*	秋にやたら多い。
45)オオチャバネセセリ	*	*	前種ほど多くないが普通にいる。
46)チャバネセセリ	*	*	少ない。
47)コチャバネセセリ	*	*	林下にわずかにみられる。
48)キマダラセセリ	*	*	少ないが目立つ。
49)アオバセセリ	*	△	2次調査では5-VIII-1974の1♀のみ。
50)ミヤマチャバネセセリ	*	*	秋に稀に見られるが、春の記録はない。
51)ミヤマセセリ	*	×	2次調査では記録なし。
52)ダイミョウセセリ	*	*	林縁に多い。
53)ギンイチモンジセセリ	*	*	2次調査では'75年に1-V, 14-VIIの記録あり。

以上のように第1次調査では53種、第2次調査では45種の蝶を確認するに至った。願わくば今後もこの様な調査を続けていってほしいものである。調査地域は立教高校のキャンパスを中心とした北は柳瀬川、南は野火止用水に至る範囲である。

最後に、調査に参加した全ての部員の努力に敬意を表したい。

(ひだ ひかる 〒135 東京都江東区清澄 3-5-11)

・・・・・

浦和市で採集した蝶（1）

－昭和62年4月～10月の採集記録－

利根川 雅実

・・・・・

浦和市の中で、秋ヶ瀬および自宅周辺の三室・芝原・中尾での採集記録である。

6科31種を採集し、採集できなかったがクロアゲハを目撃した。また、9月26日に三室中学校の近くで、ウラギンシジミが2頭舞っていたので30分ほど待ったが採れるところまで降りて来なかった。

採集には、長谷部崇くん(小5)、息子の雄也(小3)の協力があったことを記します。

セセリチョウ科

1. ギンイチモンジセセリ	2exs.	29-IV 秋ヶ瀬		
2. キマダラセセリ	1ex.	7-VI 秋ヶ瀬	1ex.	21-VI 三室
	1ex.	21-VI 秋ヶ瀬		
3. ダイミョウセセリ	1ex.	19-VII 三室	1ex.	23-VII 秋ヶ瀬
4. ミヤマチャバネセセリ	1ex.	23-VII 秋ヶ瀬		
5. イチモンジセセリ	1ex.	25-VII 三室	1ex.	19-IX 三室

アゲハチョウ科

6. ナミアゲハ	4exs.	14-VI 三室		
7. アオスジアゲハ	1ex.	17-VII 中尾		
8. キアゲハ	1ex.	4-X 三室		

シロチョウ科

9. モンシロチョウ	1♂	19-IV 三室	1♂	29-IV 秋ヶ瀬
	1♀	31-V 秋ヶ瀬		
10. スジグロシロチョウ	3♂ 1♀	29-IV 秋ヶ瀬	1♀	31-V 秋ヶ瀬
	1♂	30-V 三室	1♂ 1♀	7-VI 秋ヶ瀬

11. ツマキチョウ 2♂2♀ 29-IV 秋ヶ瀬
 12. モンキチョウ 1ex. 14-VI 三室
 13. キチョウ 1ex. 7-VI 秋ヶ瀬

シジミチョウ科

- | | | |
|----------------|----------------|-----------------|
| 14. ベニシジミ | 3♂♀ 29-IV 秋ヶ瀬 | 3♂♀ 7-VI 秋ヶ瀬 |
| | 1ex. 14-VI 三室 | 2exs. 21-VI 秋ヶ瀬 |
| 15. ツバメシジミ | 1♂2♀ 29-IV 秋ヶ瀬 | 1♂ 21-VI 秋ヶ瀬 |
| 16. ミドリシジミ | 2♂ 7-VI 秋ヶ瀬 | 1♀ B 21-VI 秋ヶ瀬 |
| 17. ミズイロオナガシジミ | 1ex. 7-VI 秋ヶ瀬 | |
| 18. ヤマトシジミ | 3exs. 14-VI 三室 | 1♂1♀ 21-VI 三室 |
| 19. ウラギンシジミ | 1♂ 19-IX 三室 | 1♂ 20-IX 三室 |
| 20. ゴイシシジミ | 1♂ 20-IX 中尾 | |
| 21. ウラナミシジミ | 3♂ 4-X 三室 | |

タテハチョウ科

- | | | |
|--------------|-----------------|----------------|
| 22. コミスジ | 2exs. 29-IV 秋ヶ瀬 | 2exs. 14-VI 三室 |
| 23. キタテハ | 1ex. 5-IV 芝原 | 1ex. 29-IV 秋ヶ瀬 |
| | 2exs. 31-V 秋ヶ瀬 | 2exs. 14-VI 三室 |
| 24. イチモンジチョウ | 2exs. 31-V 秋ヶ瀬 | |
| 25. コムラサキ | 1♀ 31-V 秋ヶ瀬 | |
| 26. ミドリヒョウモン | 1ex. 20-IX 中尾 | |
| 27. ヒメアカタテハ | 2exs. 4-X 三室 | |

ジャノメチョウ科

- | | | |
|----------------|-----------------|------------------|
| 28. ヒメウラナミジャノメ | 3exs. 29-IV 秋ヶ瀬 | |
| 29. ヒメジャノメ | 2exs. 31-V 秋ヶ瀬 | 3exs. 7-VI 秋ヶ瀬 |
| 30. サトキマダラヒカゲ | 1ex. 14-VI 三室 | 1ex.(夜)16-VII 三室 |
| | 1ex. 17-VII 中尾 | 1ex.(夜)19-VII 三室 |
| 31. ナミヒカゲ | 1ex. 8-VI 三室 | 2exs. 14-VI 三室 |
| | 1ex. 21-VI 三室 | |

(とねがわ まさみ 画336 浦和市三室 1218-3-807)

埼玉県産半翅類雑記（11）

野沢 雅美

○ クヌギカメムシを寄居町で得る

日本産のクヌギカメムシ科 *Urostylidae* には2属5種が知られている。このうちクヌギカメムシ属 *Urostylis* には酷似したヘラクヌギカメムシ、サジクヌギカメムシ、クヌギカメムシの3種がいる。いずれもクヌギやナラ類などの樹上生活種で、通常は目にとまる機会は少ない。雄は生殖節の形態から容易に判別できるが、外見上は極めてよく似ており区別が難しい。

これまで埼玉県内各地で行なった樹上スイーピングで得られたのは、全てヘラクヌギカメムシ *Urostylis annulicornis* Scott で、ほかの2種を得たことが無かった。しかし、毎年夏に行なっている自宅庭での Light-trap で、白幕に飛來した *Urostylis* 属の一個体をヘラクヌギカメムシと思い込んで標本にしていたが、最近精査したところ、あれ程採集できなかったクヌギカメムシ *U. westwoodi* Scott の雄と判り驚いた次第である。筆者自身、県内におけるクヌギカメムシは、初めてなので記録しておく。なお、自宅庭にも3本のコナラが植えてあるが、それとの関連は不明である。採集データは次のとおり。

採集地：大里郡寄居町桜沢（自宅庭）

採集日：1986年8月15日 1♂ 灯火採集

○ 児玉町でタデマルカメムシの群棲

マルカメムシ科 *Plataspidae* のタデマルカメムシ *Coptosoma parvipictum* Montandon の和名は、寄主植物であるイヌタデ、サクラタデ、ママコノシリヌグイなどタデ科植物に由来しているが、埼玉県内ではこれまで、児玉町金屋、皆野町三沢などでわずかに得られていた。このほど、児玉町秋平においてみごとに群棲する本種を観察、採集したので記録しておく。山間の水田のあぜに生えていたママコノシリヌグイを寄主植物としており、茎に群がる様子はマルカメムシがクズやフジにびっしりと寄生するのと同じであった。

採集地：児玉郡児玉町秋平

採集日：1987年7月11日 (18♂♂, 13♀♀)

寄主植物：ママコノシリヌグイ（タデ科）

(のざわ まさみ 画369-12 大里郡寄居町桜沢 2506-4)

.....

川名氏採集の悪石島未記録のカメムシ

野沢 雅美

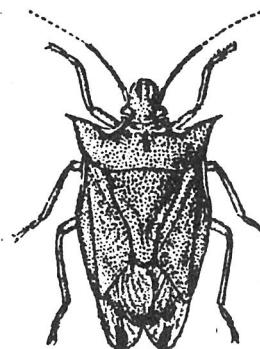
.....

1985年8月にトカラ列島悪石島に陸棲貝類の調査に出かけられた川名美佐男氏よりカメムシ類の採集品を頂いた。このうち2種は筆者自身覚えのない種で標本にしておいたが、カメムシ科のものは、Distant(1977)の文献より該当種と思われる種をあげておいたが結論できなかったので、ヘリカメムシ科のものと併せて本会顧問の長谷川仁氏に同定をお願いしていたところ次の2種と判明したので報告しておく。

報告にあたり、日頃ご指導頂いている長谷川仁氏および貴重な採集品を恵与して下さった川名美佐男氏に心より感謝申し上げる。

(1) *Amblycara gladiatoria* (Stål, 1876) イワサキオオトゲカメムシ (カメムシ科)

Distant(1904)の記載によれば、インド、
セイロン等東南アジアに分布するという。
体長20mm程の大型のカメムシで側角は鋭
角に斜前方に発達している。日本では石
垣島、西表島より記録されている(長谷
川氏私信および沖縄県産昆虫目録)。また、
長谷川氏によれば奄美大島の個体も所蔵
されており、トカラ列島悪石島からは未
記録であるという。おそらくは、北限の
記録と思われる。



イワサキオオトゲカメムシ
(Distant, 1904) より

(2) *Paradasynus spinosus* Hsiao, 1963 ミナミトゲヘリカメムシ (ヘリカメムシ科)

宮本正一氏(1975)によれば、中国・台湾・沖縄・奄美大島・九州(鹿児島)に分布するという。長谷川氏は、勤務する農業環境技術研究所には屋久島産の本種を所蔵されているとのこと。悪石島の本種は未記録であるという。体長16~20mmのヘリカメムシである。

上記2種の標本は、農業環境技術研究所に保管されていることを付記しておく。

Distant W. L. (1904); The Fauna of British India vol. 1
Hsiao Tsai-yu (1977); A Handbook for the Determination of
the Chinese Hemiptera vol. 1

宮本正一(1975); Rostria 24. 日本半翅類学会

東清二 金城政勝(1987); 沖縄県産昆虫目録. 沖縄生物学会

(のざわ まさみ 画369-12 大里郡寄居町桜沢 2506-4)

・・・・・

宿泊談話会での採集記録

森中 定治

1987年8月8日～9日に群馬県利根郡上の原高原でおこなわれた、当会恒例の宿泊談話会で採集した若干の昆虫について報告する。

8月8日(土) 晴やや風あり

[宝川温泉周辺にて]

コムラサキ 1♂ (破損)
サカハチチョウ 2♂♂ (新鮮)
ミドリヒョウモン 3♂♂ (新鮮)
キンモンガ 1♀ (新鮮)

[上の原高原周辺にて]

キチョウ 2♂♂ (新鮮)
スジグロシロチョウ 4♂♂ (破損)
イチモンジチョウ 3♀♀ (破損)
ヒメシジミ 1♀ (新鮮)
ヘリグロチャバネセセリ 1♂ (新鮮)
ウスバカミキリ (歪小型、体長27mm) 1ex.

8月9日(日) 晴

[上の原高原周辺にて]

カラスアゲハ 1♀ (破損)
キチョウ 2♂♂ (新鮮)
クロヒカゲ 2♀♀ (破損)
ヒメキマダラヒカゲ 3♂♂ (新鮮)
ミドリヒョウモン 2♂♂ 2♀♀ (新鮮)
コミスジ 2♂♂ (新鮮)
サカハチチョウ 3♂♂ (新鮮)
オオゴマシジミ 1♂ (新鮮)
ルリシジミ 1♂ 1♀ (新鮮)
オオチャバネセセリ 2♂♂ (新鮮)

チョウはオオゴマシジミ、その他2～3を除き、種および雌雄を確認後、放した。

未筆ながら、2～3のチョウ、ガ、およびカミキリムシを同定してくださった会員の皆様にお礼申し上げます。

(もりなか さだはる 画333 川口市戸塚鉄町 11-8)

・・・・・

エルタテハ蛹化場所についての小観察

西原 かよ子・西原 陽

・・・・・

私達は長野県で自然観察中、偶然エルタテハ *Nymphalis vau-album* Schiffermiller の前蛹及び蛹を見つけたので報告する。

1. 長野県木曾福島町 木曾駒高原（標高約1350m）

1987年7月5日に、山道沿のバッコクヤナギの小枝の葉裏（枝先より10cmの部分）に下垂する前蛹態幼虫一頭を見つける。周囲にはシラカバとバッコクヤナギが多かった。蛹化場所は地上より約1.4mの位置であった。この前蛹を採集し持ち帰ったところ、午後6時にはすでに蛹化していた。蛹の色は淡い卵色であり、1987年7月13日に羽化した。

2. 長野県木曾福島町 木曾駒高原（標高約1200m）

1987年7月30日に、西原陽は名古屋昆虫館主催の自然観察会に参加中、草原に孤立して生えるシラカバ低木（樹高2m）の枝先より10cmぐらいの葉裏で蛹一頭を採集、地上より0.6mぐらいの高さのところで蛹化していた。蛹の地色は肌色。

3. 長野県王滝村 御岳高原（標高1450m）

1987年7月21日に、草原の斜面に生えるシラカバ林を調べると地上より1.6mの高さの枯枝（枝先より3cmのところ）に下垂する前蛹態一頭を採集する。室内に保存すると、7月22日未明、頭部・背部が割れ脱皮、蛹化する。蛹の色は蛹化直後より淡褐色であり、7月29日に羽化した。又、付近のシラカバの地上より1.5mの高さの位置で、枯れ枝（枝先より6cmのところ）に下垂する蛹一頭を採集、持ち帰ったところ、7月28日に羽化した。蛹の色は暗褐色であった。

なお、今回観察した蛹、前蛹の全てを最初に見つけたのは西原陽である。数例の観察にすぎないが、これらはいずれも身長150cmの中学生の眼の及ぶ位置に蛹化していた。

御助言下さった市川和夫先生に心から感謝申し上げる。

(にしほら かよこ・にしほら よう 〒461 名古屋市東区砂田橋 3-2-111-703)

.....

暖冬の1988年1月における蛾の観察例

市川 和夫・利根川 雅実

.....

1987年12月下旬より1988年1月下旬までの1カ月間は、3月下旬を思わせる陽気が続いた。この時期の蛾の成虫について若干の観察例を報告する。

1. *Blenina senex* (Butker) キノカワガ

1ex., 北本市石戸宿, 17-I-1988 (市川).

午前11時30分に太いコナラの樹皮上で、地上約2メートルの陽の当たるところに静止しているのを加藤靖治氏が発見した。晩秋までは目立つ蛾である。

2. *Acte coerulea* (guenée) フクラスズメ

1ex., 北本市石戸宿, 17-I-1988 (市川).

午前10時に子供公園の男性用トイレ内の窓わくで静止。冬季の採集例は多くケーブルカーの三峰山頂駅で1月に採集したことがある。

3. *Xylena formosa* (Butler) キバラモクメキリガ

1ex., 浦和市三室, 16-I-1988 (利根川).

灯火に飛来していたものを採集した。

4. *Conistra grisescens* Draudt ミヤマオビキリガ

1ex. 浦和市三室, 13-I-1988 (利根川).

灯火に飛來した。前種も本種も秋に羽化した個体は雑木林内の落葉中などで越冬し、春に活動するのが普通である。暖かさが統けば寒の内でも飛翔することを示している。

5. *Inurois fletcheri* Inoue ウスバフュシャク

1♂, 上尾市平塚, 10-I-1988 (市川)

5♂♂, 上尾市平塚, 14-I-1988,

綾瀬川の最上部でソメイヨシノが5本生えた川岸で、下部にアズマネザサが密生する場所である。10日の午後5時20分に3♂♂を目撲したので、14日には正午に捕虫網を持って附近をたたいてみたが、1頭も飛び立たない。夕方午後5時に再び同所を訪れて待機したところ、日没後周囲が暗くなったと感じた午後5時30分頃から一斉に♂♂がササの中から飛び出した。10♂♂は目撲したが、♀は発見できなかった。例年12月中～下旬に多数が発生するのに、今冬のピークは1月中旬であった。

(いちかわ かずお 画336 浦和市南本町 2-7-11)

(とねがわ まさみ 画336 浦和市三室 1218-3, 807)

寄居町でのムラサキシジミの観察例

原 勝 司

一時的に県内から姿を消していたムラサキシジミは、数年前より入間・比企の丘陵地帯を中心に復活している。大里郡においても寄居町桜沢の岩崎地区で、今冬は多数の生息を確認したので報告する。

1987年12月26日、荒川左岸の南面する斜面林：ここは上方は竹林が主で、下方はコナラ・クヌギにアラカシの幼木が混生する雑木林であり、その一画にある墓地にはアラカシが繁茂している。その林の小径に沿って野生化したチャの木が茂った陽溜りがあり、ハエがよく集まっているので、午前10時に写真撮影に訪れた。

高さ1mの陽当たりの良いチャの葉上に、翅の上面を太陽に向けて日光浴するムラサキシジミ1♂を発見したので、近付くと翅を立てて裏面を見せた形の静止姿勢となる。約60cmの距離でシャッターを押すこと3回、ムラサキシジミは飛び立って、近くのアラカシの高さ5mほどの陽が当たった葉面で静止する。捕虫網を振るとさらに高い所へ移動していく。

注意して周囲を見回すと、近くのチャの葉上やコナラの枯れ葉にもムラサキシジミの1♀、6♂♂が日光浴をしていることを確認できた。

その日の午後はやや風が出てきたためか、同所で目撃できたムラサキシジミはない。

12月27日、10時に前日の場所より約20m離れた陽溜りの林床のササの葉の上(地表より約20cmの高さ)に、ムラサキシジミの2♀♀、3♂♂が翅を広げて日光浴をしているのを確認する。

1m程度まで近付くと翅を立て、さらに接近すると飛び立って2~3m離れた陽の当たった葉上に移動する。驚かすと付近のアラカシの高さ5mほどの葉に移動してしまうというように、昨日の観察と同様であった。

この年は12月初・中旬に2回降雪をみたものの、初冬の平均気温は例年より高いという。

.....

三ヶ島のジャコウアゲハの小観察

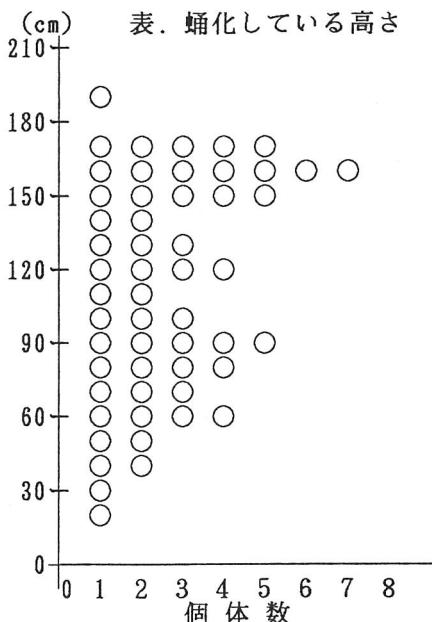
神久保 美津夫

.....

所沢市三ヶ島地区でジャコウアゲハの蛹を観察したので報告する。

1987年12月26日、午後1時～3時までの2時間かけて当地を調べてみた。この場所は、1983年度に埼玉昆虫談話会が昆虫類の調査をおこなった思いでの地である。その時にはジャコウアゲハは正確には確認できなかったが、碓井徹氏が1983年6月22日に本種と思われる個体を目撃している。翌年あたりから本種が急に増えはじめ、今はやや少なくなったものの、まだ健在である。現在、早大キャンパスの工事が進んでいて、食草のウマノスズクサは工事現場のへりや付近の茶畠のへり、あるいはブドウ畠のへりなどわずかな空き地にのみ見ることができる。

秋に訪れた時には、十数頭の終令幼虫を観察しているので、冬を待って蛹を観察するために再び訪れてみた。



クリの木に蛹化したジャコウアゲハ(三ヶ島)

蛹は食草のあった付近のクリの木、あるいはブドウ棚を支えている棒や枯れ草の堅い部分など、比較的目につきやすい場所に多かった。発見できた蛹は54個体、このうち、生きていると思われる個体（茶色で透明感がある）は、わずか9個体のみであった。黒く変色した死亡個体と茶色ではあるが不透明な個体（割ってみるとウジ虫が入っている）がほとんどである。蛹の位置は低い所で25cmぐらい、高い所で190cmぐらいであった（表参照）。もっともこの付近には高い木がなかったのでこのような結果がでたが、2年前に観察したときには、エノキの4mほどの高い場所から発見している。

(じんくば みつお 〒358 入間市下藤沢158)

埼玉県の蝶3種の記録

中村英夫

県内の蝶3種について、記録に残すべきと思われるデータを報告、コメントする。

1. モンキアゲハ（目撃記録）

29-VII-1975 秩父郡荒川村秩父線ガード付近(浦山口駅付近)

古い記録であるが、本種の県内での記録増加。土着域拡大の経年フォローのうえで参考になると思われる。

2. ギンイチモンジセセリ（目撃記録）

18-VIII-1983 上福岡市元福岡(地名は現在のもの)

住宅地での珍しい記録。住宅地に遺存的生息していたものか飛来個体かは不明である。場所は川越市と上福岡市の市境で、近くの新河岸川の堤防等での分布の可能性はあるが、1984年5.8月、1985年5月、1987年5.8月にそれぞれ見た限りでは全く発見できなかった。

3. ウスイロオナガシジミ（2齢幼虫）

2-V-1985 比企郡都幾川村堂平山

近隣の東京都、神奈川県等の低山地のカシワ林に較べると、県内の記録は極端に少なく、また同地でもかなり稀な種とおもわれる。この個体は、上福岡市（コナラ）および京都市（アラカシ）で飼育した結果、31-Vに♀が羽化した。

なお、同日同地で採集したハヤシミドリシジミの幼虫から弱い青紫斑を有するB型個体1♀が得られたことを付記しておく。

(なかむら ひでお 〒607 京都市山科区竹鼻地蔵寺南町16 東レ社宅 A2-37)

· · · · ·

蝶の翅脈への血流の実験について

石澤直也

· · · · ·

昆虫の翅に血液（正確にいうと血リンパ液）が流れているということを最初に確認したのは、英國の Henry Baker で 18世紀の前半のことである。その後 20世紀に入り、昆虫学が発達するにつれ、翅の翅脈の中をどのように流れているのかが問題になり、種々の昆虫についてその解答作業は現在も続けられている。最も信頼できる学説は、本誌 49号で筆者が紹介した西独のルール大学の Wasserthal のもので、蛍光テトラサイクリンをモンシロチョウに浸入させ、紫外線を当てて血液の流れの状態を撮影するのに成功している。

筆者も、ウスバキトンボとアキアカネで翅脈を切断してみてその血流を観認した（1986年9月15日）が、Wasserthal の論文に刺激され、モンシロチョウとスジグロシロチョウで血流の実験をしてみた。

実験は、ツベルクリン注射用の一番細い注射針とシリンダー容量が 1cc で最小目盛り 20ミリ cc のものを使い、食紅 102 号の水溶液を蝶の腹部より約 6 ミリ cc 注入して翅脈の着色状況を見ることにした。蝶は 1987 年 4 月 19 日の午前中に採集したモンシロチョウ♂2、♀1、スジグロシロチョウ♂1 で、午後注入実験を行った。

モンシロチョウでは♂、♀共に 30 分ぐらいで翅脈の基部が薄紅色に着色し始めた。脚については翅脈よりも着色は速かった。スジグロシロチョウについては、注入による血圧の増加を避けるために食紅水溶液を注入して凡そ 10 秒後に略同量の血液を抜き戻した。スジグロシロチョウは、翅脈が黒いため翅脈の着色は正確には確認されなかったが、翌朝精査したところ翅の膜面を触角の先端部分及び脚が赤く着色されているのが見られた。モンシロチョウについても同様の着色結果となっていた。翅脈の着色状況は先端部分まで連続して着色されたのではなく、ときれときれになっていた。これは拍動器官のパルスに関係しているものと思われる。この実験では翅の鱗粉の剥離が不完全で翅の透明度が不十分だったため、この点については今後もっと工夫する必要がある。またできれば、蛍光着色液を使い紫外線を照射して写真撮影をしたいところである。最後に血液を抜かれたスジグロシロチョウは飛ぶことができない状態だったことを付け加えておく。

（いしさわ なおや 画 359 所沢市山口 1644-15）

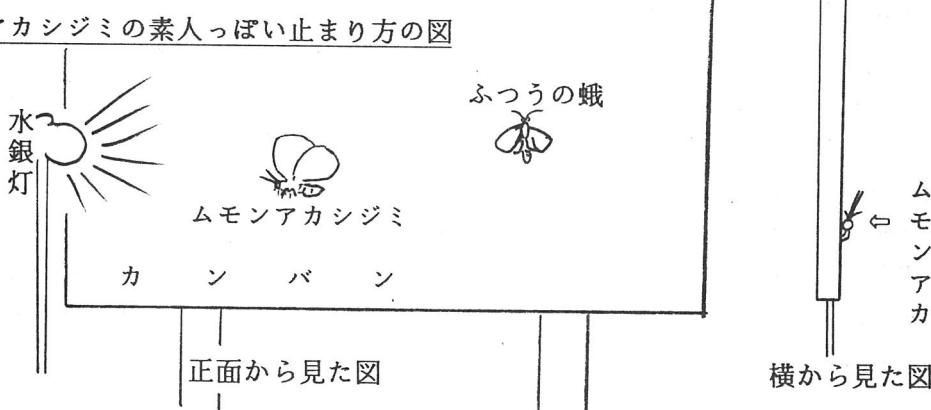
■ ■ ■ ムモンアカシジミ♂を灯火採集 ■ ■ ■

竹内 崇夫

1987年8月8日(土)夜9時頃、当会の宿泊談話会のメイン会場である、群馬県水上町の『ロッジ上の原山の家』から抜け出で、碓井氏とこっそり街路灯巡りを行っていた時のこと、藤原湖周辺の道路沿いの大きな白地カンバンに水銀灯が照りつける絶好の採集場がみつかった。無数の蛾が群がり、各種の甲虫が地面を這っていた。フト、そのカンバンを見あげると、ほぼ中央に図の様にいかにも素人っぽい止まり方をしている蛾が目に付いた。よく見ると蝶のようにも見えたので、とりあえずネットインした。

なっ！なんと！！ムモンアカシジミの♂ではないか。しかもド完品。信じられない思いで会場へ戻り、皆に報告した。しばらくして数人が姿を消した。

ムモンアカシジミの素人っぽい止まり方の図



ところで、東南アジアでは珍種のシジミは灯火で採れているらしい。

(たけうち たかお 画330 大宮市丸ヶ崎町 10-17)

■ ■ ■ スミナガシ♂をトンネル照明下で採集 ■ ■ ■

竹内 崇夫

前報のムモンアカシジミの一件の後、今度は樋田氏と藤原ダムの照明に集まるクワガタ採集に出かけた帰路の事。トンネルの入口付近のオレンジ照明下をウロウロ捜していると、入口から数m入った路面にスミナガシが奥へ向いて翅を広げていた。長い時間

車につぶされずに居たのか、すこし前にやって来たのか、またも信じられない思いであった。

(たけうち たかお 画330 大宮市丸ヶ崎町 10-17)

■■■■■ 今年も大宮市内でジャコウアゲハを見た ■■■■■

竹内 崇夫

大宮市の北部に生える蝶の食草は大体把握しているつもりだが、ウマノスズクサも年々減少し、ホソオチョウの飼育も相当努力しないと集められない様になってきている。そんな環境の大宮市丸ヶ崎の自宅にて、9月5日(日)の昼下がり、しばしのくつろぎを足した後、フト、トイレの窓から畠越しに眺めると、民家の生け垣を大型のアゲハチョウが不器用に飛び越えるところが目についた。その不器用さから、この辺では全く見られないジャコウアゲハと気付き、飛んで行く方向を見定めてからネットを持って家を飛び出した。既に4・5軒先の屋根を越え、山崎正則君の住む島町の方へ、ほぼ直線的に飛んで行く。約1km程追ってネットインし、自宅の庭のウマノスズクサに袋掛けして16卵産ませて放してやった。昨年は、近所の生け垣に、1株だけ生えている食草に中令幼虫が1頭だけ申し訳なさそうについているのを確認したが、今年も同株に10数卵産んであった。これらは多分、隣接する上尾市、蓮田市、岩槻市あたりの発生地からやってきたものと思う。

(たけうち たかお 画330 大宮市丸ヶ崎町 10-17)

■■■■■ 奥秩父におけるモンキアゲハの採集例 ■■■■■

齊藤 章

秩父郡大滝村霧藻ヶ峰においてモンキアゲハを採集したので報告する。

採集地：埼玉県秩父郡大滝村霧藻ヶ峰山頂 (標高 約1500m)

採集個体：1♂(やや汚損) 採集日：1987年8月29日 採集者：齊藤 章

(さいとう あきら [上尾高校生物部員] 画362 上尾市浅間台1-6-1 上尾高校内)

1988年3月

寄せ蛾記51号

===== ダイミョウハネカクシ、アカビロウドコガネを襲う =====

小田 博

1987年7月25日午後、北海道伊達市有珠町の有珠山山麓にて採集中、登山道側溝で1頭（雌雄不明）のダイミョウハネカクシ *Staphylinus daimio* SHARP が、アカビロウドコガネ *Maladera castanea* (ARROW) を襲い、右触角のあたりに喰いついているのを目撃した。うかつにも採集しようと手を伸ばしたため、獲物を離してしまったが、本種がこれまで他の甲虫を襲撃したという記録はないようなので、さしあたり報告しておく。なお、同日同所で採集したダイミョウハネカクシは4頭（1♀3♂♂）である。

(おだ ひろし 画354 富士見市上沢 3-6-15)

===== 川越市周辺におけるヒラタクワガタの記録 =====

吉越 肇

ヒラタクワガタ (*Dorcus titanus* BOISDUVAL) は、暖地性の種類といわれ、関東地方においては棲息地が局所的である。従来埼玉県下における本種の記録は、熊谷市（大麻生の北西方）における一例^{*}のみのようであるが、川越市の近傍において以下のように採集されているので報告する。

1♂, 埼玉県川島町釘無, 11-I-1987, 大野 勝示 採集（朽木）

1♂, 埼玉県川越市府川, 6-VI-1987, 吉越 肇 採集（樹液）

いずれも小型の個体である。

※) 寺山 守：熊谷市産動物目録基礎資料, p. 32. 1982,

(立正大学北埼玉地域研究センター)

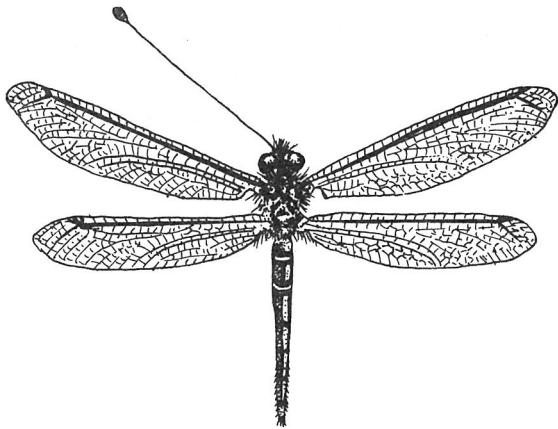
(よしこし はじめ 画330 大宮市櫛引町 2-499-2-802)

三峰山のオオツノトンボの記録

小堀 文彦

県内での記録のあまりない
と思われるオオツノトンボ
Protidricerus japonicus
を三峰山で得たので報告する。

1♂ 山頂近くの大駐車場
11-VII-1987 小堀洋子採集
夜の11時頃、水銀灯の真下
の側溝内で、アリの攻撃によ
り片方の触角と脚の一部を切
られたものの、バタバタと暴
れていた。



三峰山産 オオツノトンボ

(こぼり ふみひこ 画364 北本市下石戸下 703-3 公団 4-1-302)

関東平野でカラフトゴマケンモンを採集

利根川 雅実

昨秋、周辺にコナラ林（アカマツーヒサカキ群集）のある自宅附近の灯火に飛来する蛾を採集してみたが、その中に山地性種が含まれていた。蛾の同定とともに、記録の発表をすすめて下さった市川和夫氏に感謝する。

(1) *Panthea coenobita* (Esper) カラフトゴマケンモン

1♂, 浦和市三室 26-IX-1987. 従来の埼玉県での採集記録は、甲武信岳、三国峠それに志賀坂峠(6-8月)である。

(2) *Nocna malachilis* (Oberthür) ニッコウアオケンモン

1♂, 浦和市三室 26-IX-1987. 県内では6~8月に低山から山地には広く分
布するという。

(とねがわ まさみ 画336 浦和市三室 1218-3 北浦和マンション 807)

北本市石戸宿におけるツマグロキチョウの記録

上尾高校生物部

北本市石戸宿において、ツマグロキチョウ *Eurema laeta* BOISDUVAL を下記のとおり採集しているので報告する。採集データはすべて1987年のものであり、データの最後は採集者の名前である。なお、採集したすべての個体が新鮮な個体であった。

IX-20, 1♂, 斎藤章 : X-10, 1♂, 五十嵐直之 : X-10, 1♂, 森博志
X-11, 1♂, 及川史子 : X-29, 1♂, 斎藤章

(あげおこうこうせいぶつぶ 画336 上尾市浅間台1-6-1 上尾高校内)

北本市石戸宿でネアカヨシヤンマを採集

碓井徹

北本市石戸宿において、下記のとおり本種を採集しているので報告する。

ネアカヨシヤンマ *Aeschnophleia anisoptera* 1♂ (成熟個体)

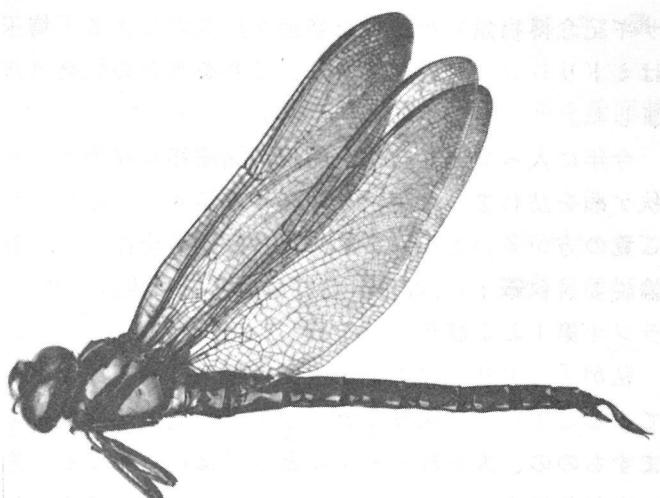
採集日

1987年8月12日

採集者

碓井徹

同地に多産する
アオヤンマの調査を
していたところ、偶
然ネットインしたも
の。採集した個体以
外に本種は目撃でき
なかった。



写真の個体が、北本市石戸宿での採集個体。

(うすい とおる 〒362 上尾市壱丁目454-3)

【「埼玉県の蝶」制定について】

会代表 市川 和夫

埼玉県の木はケヤキ、花はサクラソウ、鳥はシラコバトです。蝶は・・・、蛾は・・・甲虫は・・・とあってもよいと思います。日本昆虫学会がオオムラサキを「国蝶」とした例にならって、せめて「埼玉県の蝶」くらいは決めたいと長い間考えていました。

月刊誌「埼玉・人とこころ」(埼玉文化懇談会)からの依頼で、昭和52年(1977)4月号に「蝶たちの世界」という小文を掲載し、その中でウスバシロチョウが埼玉県の蝶を代表する第一候補と思うと述べたことがあります。しかし、この蝶は他県にも発生地が多いので、みなさんの同意を得られそうにありません。

その後、折りをみては会員の方々にお聞きしました。クロシジミ(生活史がユニークであるが、現在は生息地が少ない)、キマダラルリツバメ(1954年の発見地は環境が変わってしまい、おそらく絶滅)、ミドリシジミなどが挙げられ、牧林功氏や原聖樹氏等多くの人が現状と将来性を考慮しこれらの内でもミドリシジミが最もふさわしいと推薦しております。

私も他県の状況を調べた結果、最近は同じ意見を持つようになりました。県の荒川総合調査報告「荒川(自然)」(埼玉県)の715ページに「早い機会にミドリシジミを埼玉県の蝶に指定したい」と述べてきました(1986.6.5)。さらに昨年(1987)8月2日にシラサギ記念博物館で行われた当会々員6名による「埼玉の蝶のお話し会」でも、「県の蝶」はミドリシジミが最適である、これを当会の総会で決めてはどうか、との意見が出されました。

今年に入って間もなく、毎日新聞浦和支局の小川記者とミドリシジミの多産地である秋ヶ瀬を訪れましたが、その時に本年4月の総会で決議する予定であると申したところ、ご覧の方が多いと思いますが毎日新聞の全国版(1月26日)、同一面の「余録」(本社の論説委員執筆; 1月28日)の欄に大々的に報道されました。それをNHKが取りあげて、ラジオ第1およびテレビ1ch.でも放送されたとのことです。

私が「ミドリシジミを埼玉県の蝶に、埼玉昆虫談話会で指定したい」という意見を持っていることは、金曜セミナーや冬季宿泊談話会などの発言でご存知の会員が何人もおりますものの、大多数の方々にとっては初耳のことと思います。竹内崇夫さんなどからは、いきなり総会に出すのではなく、会報を通じて事前に全会員にお知らせしておくべきであるとのもっともな進言をいただきました。新聞等の報道が先行してしまい、戸惑われた会員の方がおられたと思うと、申し訳なく思っております。

1988年3月

寄せ蛾記51号

ミドリシジミをみなで大切に見守っていきたい、という願いをこめて、来る4月3日(日)の総会において「ミドリシジミを埼玉県の蝶に指定したい」という提案をし、出席者の賛同を得た上で決定したいのでよろしくお願ひします。提案者に牧林功さんを予定しております。総会に出席できない会員の皆様からのご意見や、提案に対するメッセージなどを待ちしております。

また、このことについて報道機関より要請があれば写真等の資料を提供し、決定後は県の自然保護課や県環境会議等に通告する予定です。

(参考)

日本の低湿地は都市化された所が多く、ハンノキ林は激減してしまった。幸い埼玉県では荒川・見沼等の低湿地や比企丘陵などの湿地にハンノキ林がかなり広範囲にあり、本種は多産する。また、三峰山等の秩父山地のヤマハンノキにも生息している。

ミドリシジミは図鑑等において埼玉県産の写真や記事が数多くとりあげられている。

(いちかわ かずお 〒336 浦和市南本町2-7-11)

北本市石戸宿でクマゼミの声を聞く

碓井徹

1987年8月16日、午前11時30分から正午頃まで、同地にてクマゼミの鳴き声を数回聞いたので報告する。個体数は1頭のみのようであった。

(うすい とおる 〒362 上尾市壱丁目454-3)

【訂正】

本誌50号：白水 隆『西表島のワモンチョウの記録は誤報』

p.808 本文11行目；綱取産 ⇒ 網取産

p.809 末尾の著者住所：2-46-28 ⇒ 3-46-28

本誌50号：上尾高校生物部『埼玉県下でバンダイマイマイを採集』

p.842 採集日：1986年8月24日 ⇒ 1985年8月4日

寄せ蛾記 51号 目次

井 上 寛	： いるま蛾報（2）	850
長谷川 仁	： 埼玉県産江戸時代の昆虫図（2）	852
石 澤 直也	： トンボの雌は重心を配慮した形態をしているか？	856
小野寺 博昭	： 南と北の蝶採集記（1987年）	864
松 田 幸弘	： 長野県野辺山高原の蝶	872
松 田 幸弘	： 三国峠とその周辺の蝶	873
星 野 正博	： カラスアゲハの食草について	875
星 野 正博	： コアシナガバチの巣は冬でも危険	876
平 山 精孝	： 利根川河川敷の蝶	877
樋 田 光	： 新座の蝶	878
利根川 雅実	： 浦和市で採集した蝶（1）	881
野 沢 雅美	： 埼玉県産半翅類雑記（11）	883
野 沢 雅美	： 川名氏採集の悪石島未記録のカメムシ	884
森 中 定治	： 宿泊談話会での採集記録	885
西原かよ子・西原陽	： エルタテハ蛹化場所についての小観察	886
市川和夫・利根川雅実	： 暖冬の1988年1月における蛾の観察例	887
原 勝 司	： 寄居町でのムラサキシジミの観察例	888
神久保 美津夫	： 三ヶ島のジャコウアゲハの小観察	889
中 村 英夫	： 埼玉県の蝶3種の記録	890
石 澤 直也	： 蝶の翅脈への血流の実験について	891
竹 内 崇夫	： ムモンアカシジミ♂を灯火採集	892
竹 内 崇夫	： スミナガシ♂をトンネル照明下で採集	892
竹 内 崇夫	： 今年も大宮市内でジャコウアゲハを見た	893
斎 藤 章	： 奥秩父におけるモンキアゲハの採集例	893
小 田 博	： ダイミョウハネカクシ、アカビロウドコガネを襲う	894
吉 越 肇	： 川越市周辺におけるヒラタクワガタの記録	894
小 堀 文 彦	： 三峰山のオオツノトンボの記録	895
利根川 雅実	： 関東平野でカラフトゴマケンモンを採集	895
上尾高校生物部	： 北本市石戸宿におけるツマグロキチョウの記録	896
碓 井 徹	： 北本市石戸宿でネアカヨシヤンマを採集	896
市 川 和 夫	： 「埼玉県の蝶」制定について	897
碓 井 徹	： 北本市石戸宿でクマゼミの声を聞く	898
	【訂正】	898
	昭和63年度総会のお知らせ	899
	会 報	900
	編集後記	901
	〔会員名簿の変更／訂正／追加〕	